



エレクトロ サーボ プレーヤー システム

QL-Y5

 ELECTRO-DYNAMIC SERVO TONE ARM

取扱説明書



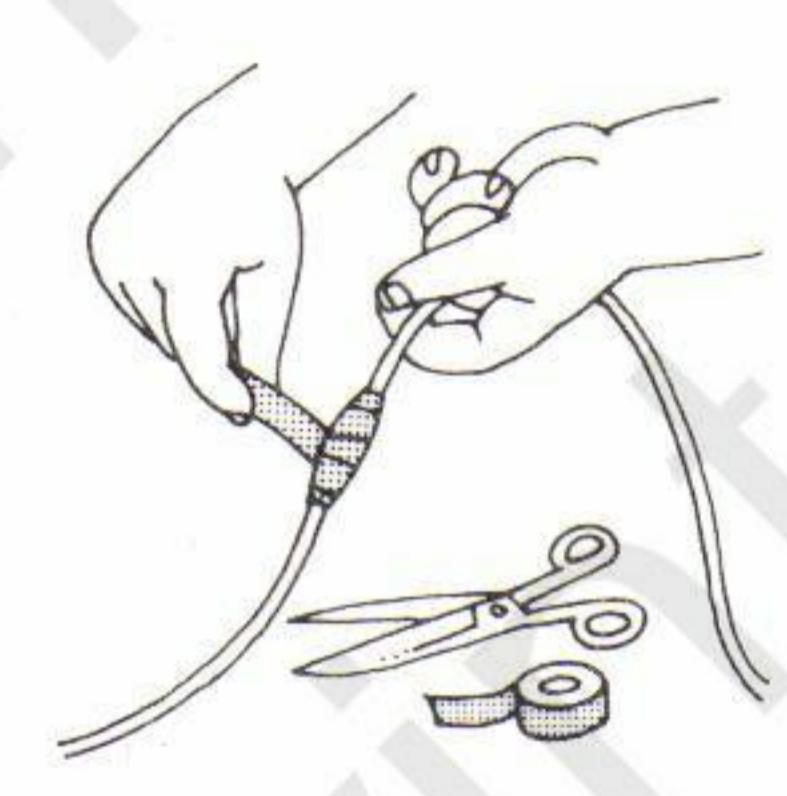
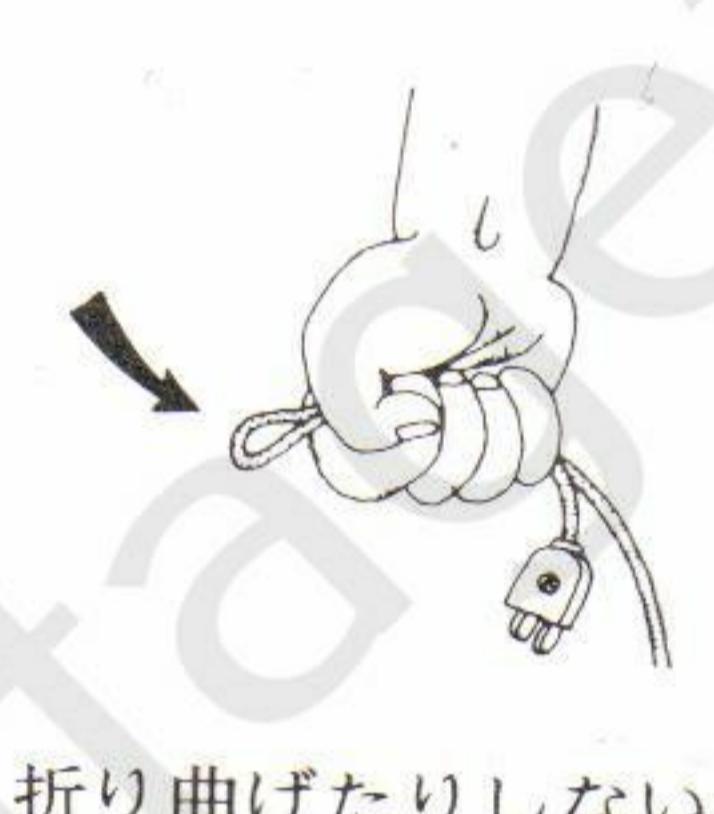
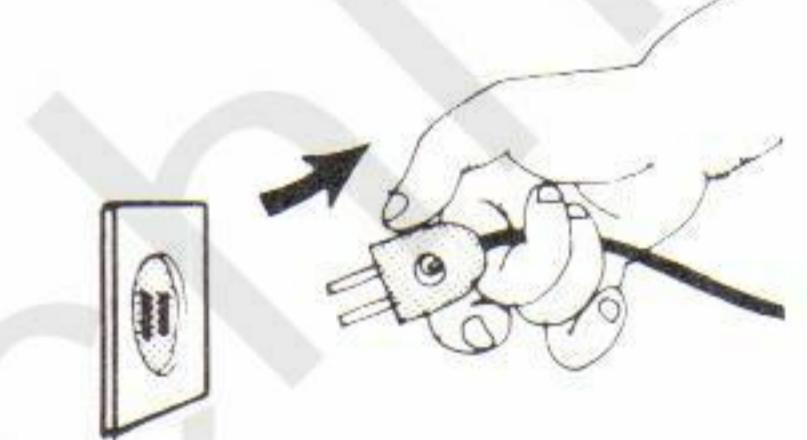
— お買いあげありがとうございます —

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

ご注意

■ 安全上の注意

- ・電源電圧は、
交流 100V をご使用ください。
- ・電源周波数は、
50 Hz 地域 または 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。
- ・電源コードを取り扱うときには、
電源コードの取り扱いかたが悪いと、火災や感電の原因となることがありますので、次のような点に十分ご注意ください。



・異常と感じたときは、
煙がでている、変な匂がする……
などの故障状態のまま使用すると危
険です。すぐに電源プラグをコンセ
ントから抜いて販売店に修理にご依
頼ください。

・セットの内部に触ることは、
危険なうえ故障の原因となります。
内部の点検・調整は、販売店へお任
せください。

・水がこぼれたときは、
セットの上に花びん、化粧品、薬品
など水の入った容器を置かないでく
ださい。
万一内部に水が入った場合は、電源
プラグをコンセントから抜いて、販
売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電・
故障の原因となります。



100V以外は使用しない



■ 取扱上の注意

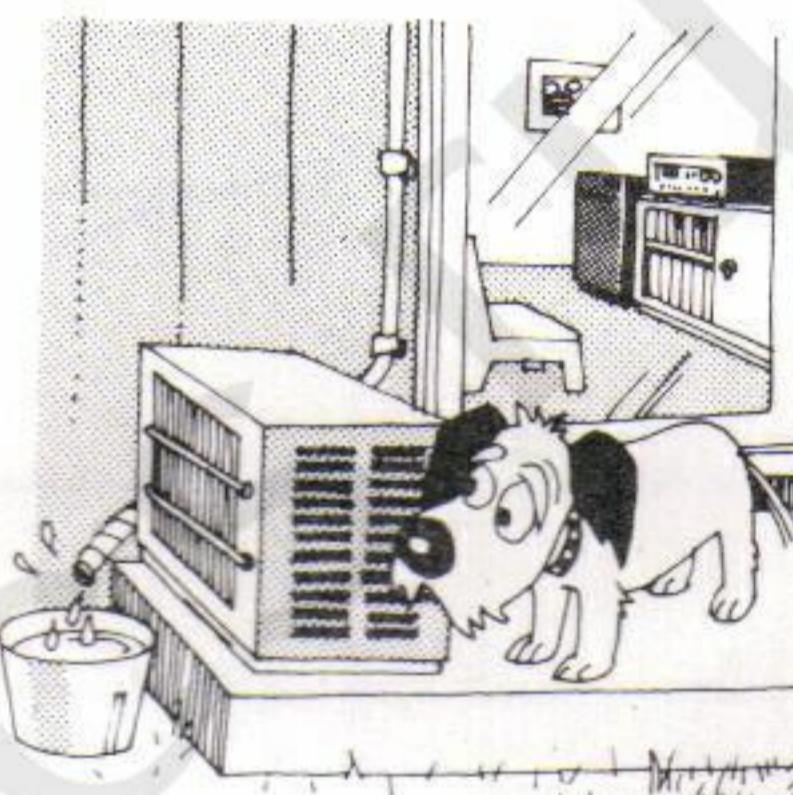
- ・变形、変色、熱、雑音、破損、故障などを防止するため、次のような場所はできるだけさけてください。



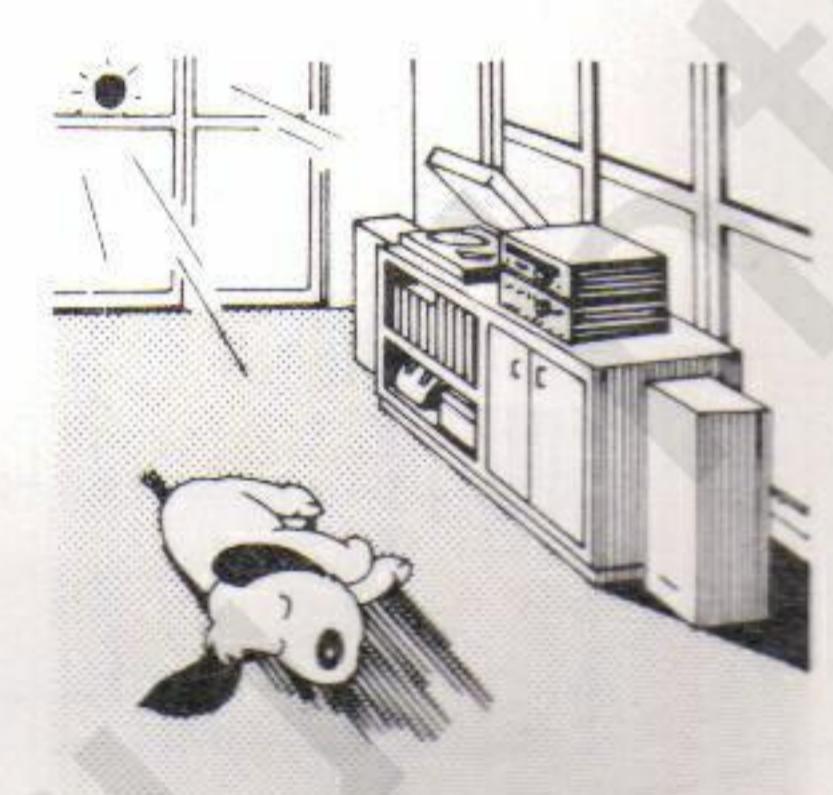
周囲温度が“0°C~40°C”
の範囲を超える所



寒い部屋から急に暖かい部
屋への移動



湿気の多い所



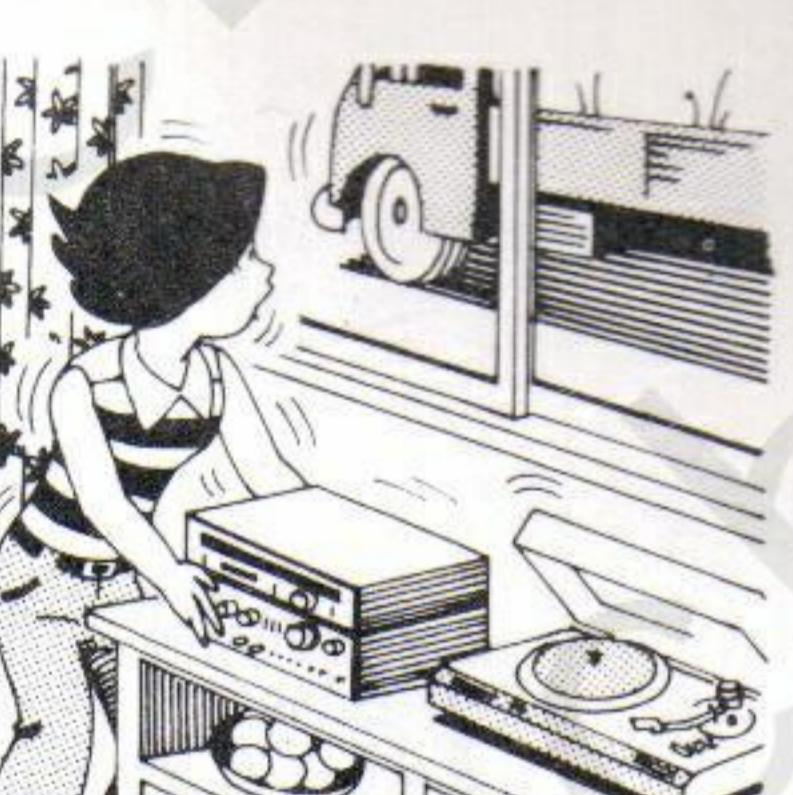
直射日光の当る所



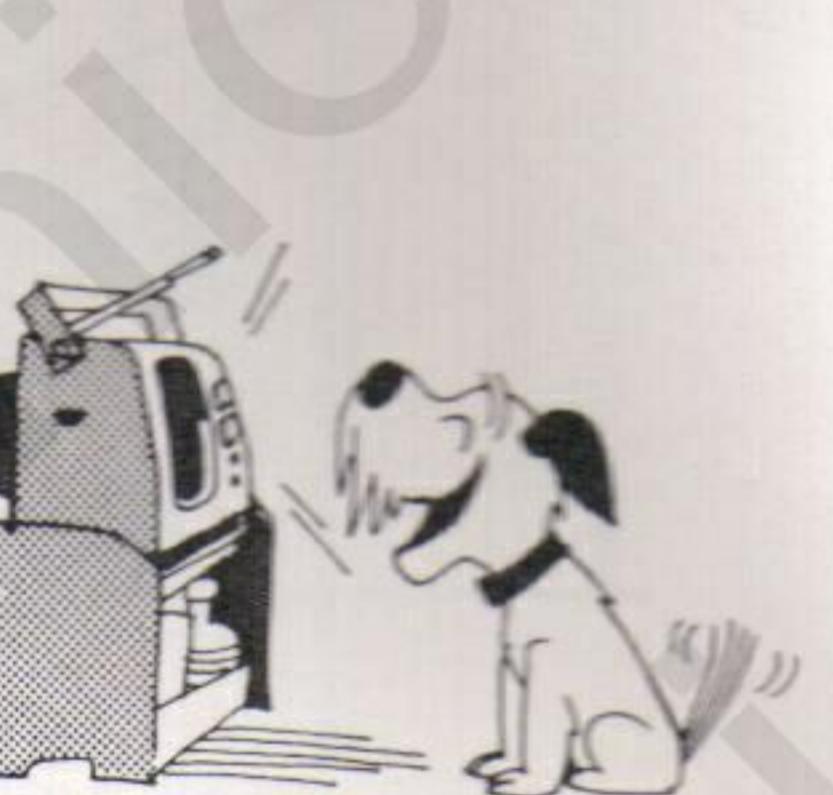
不安定な所



暖房器のそば



振動やホコリの多い所



テレビのそば

・外国での使用は？

本機は日本国内用に作
られていますので、電
源電圧、電源周波数の
異なる外国では、使
用できません。



・キャビネットが汚れたら、

中性洗剤などで汚れを
落し、乾いた布でふき
とります。
シンナーやベンジンな
どの使用は、ひび割れ、
変色を招きます。



レコードを聞くには（■プレーヤー部の操作
■アンプ部の操作
■レコードを上手に聞くコツ）

ご注意（■安全上の注意
■取扱上の注意）
主要部分の名称および働き

保証とアフターサービス

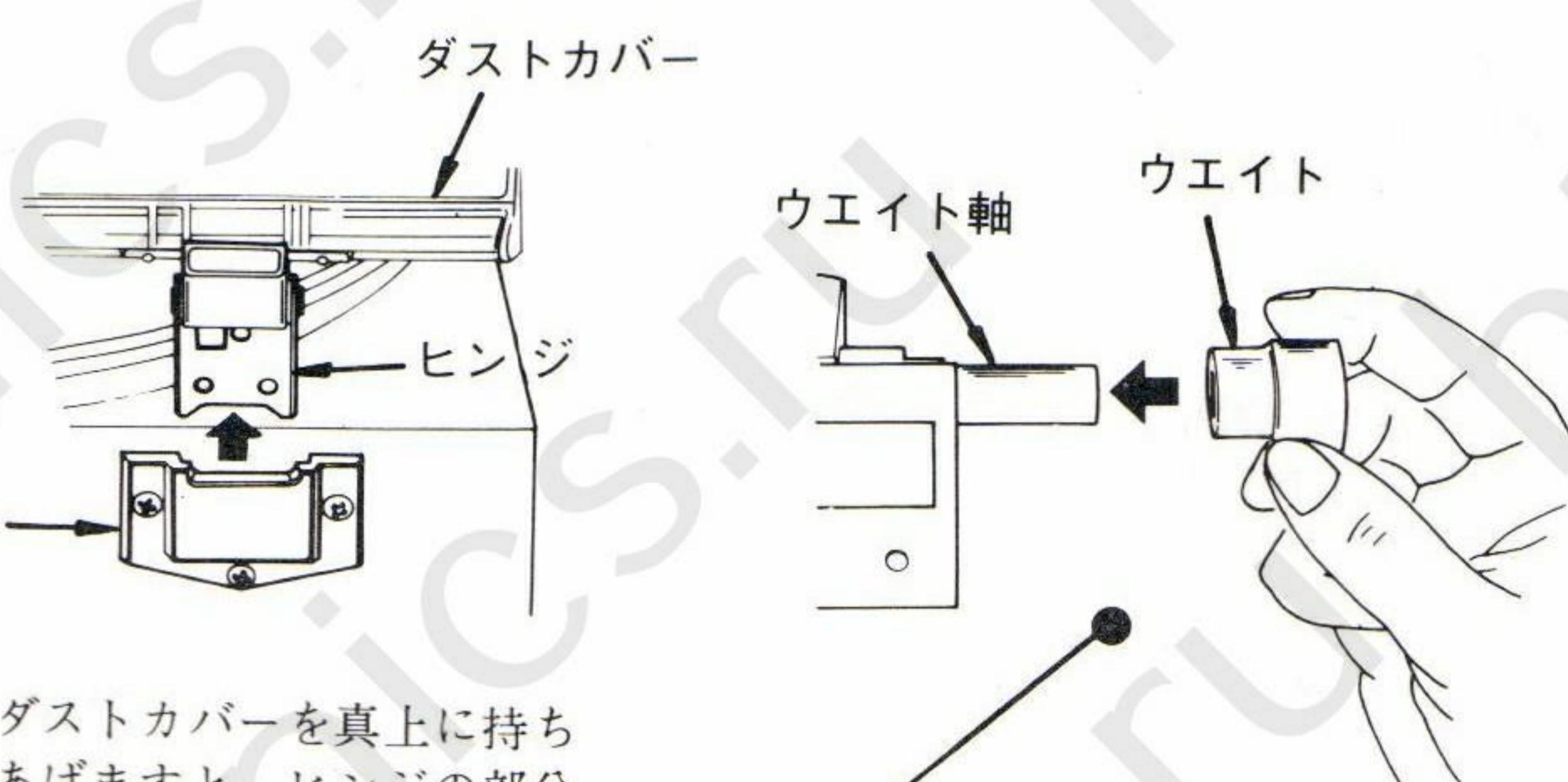
故障？と思う前に

準備

— すべての接続が終るまで、電源プラグはコンセントにさしこまないでください —

開梱・組立

ダストカバーをはずします。

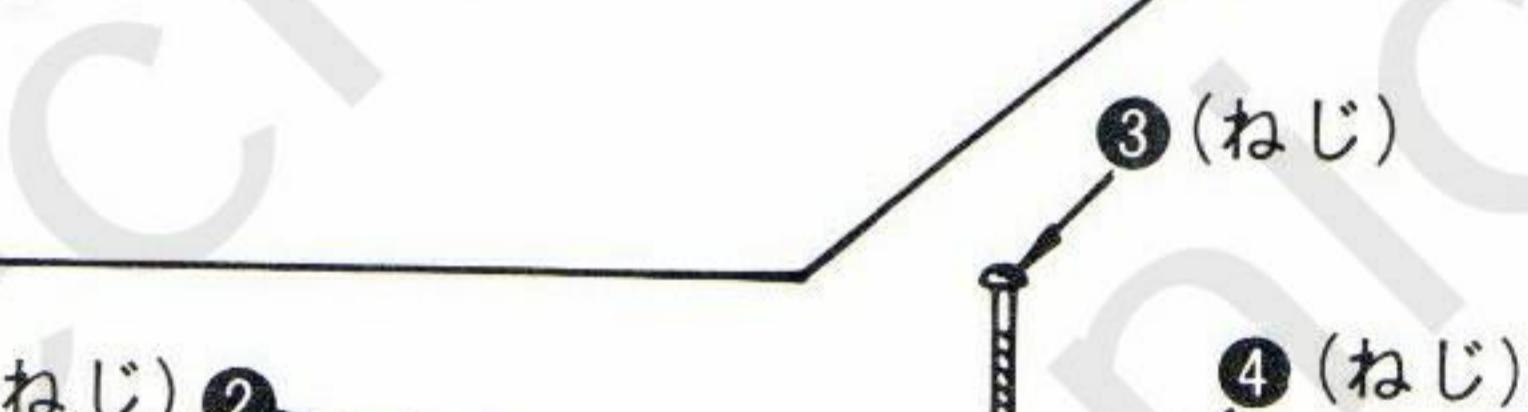


破損防止用ねじやコーナーなど、①～⑪の梱包材を取りはずします。

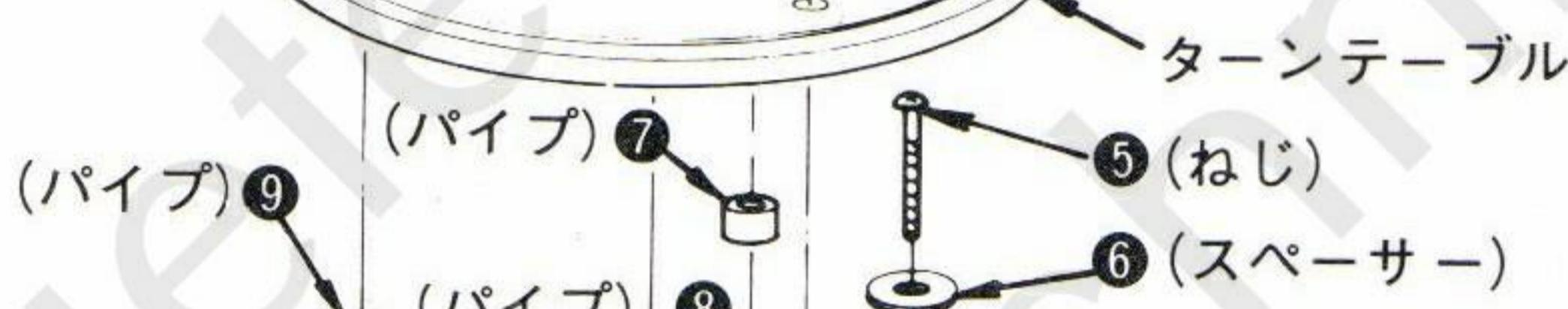
ウェイトをウェイト軸にさしこみます。

ダストカバーを真上に持ちあげますと、ヒンジの部分がはずれます。

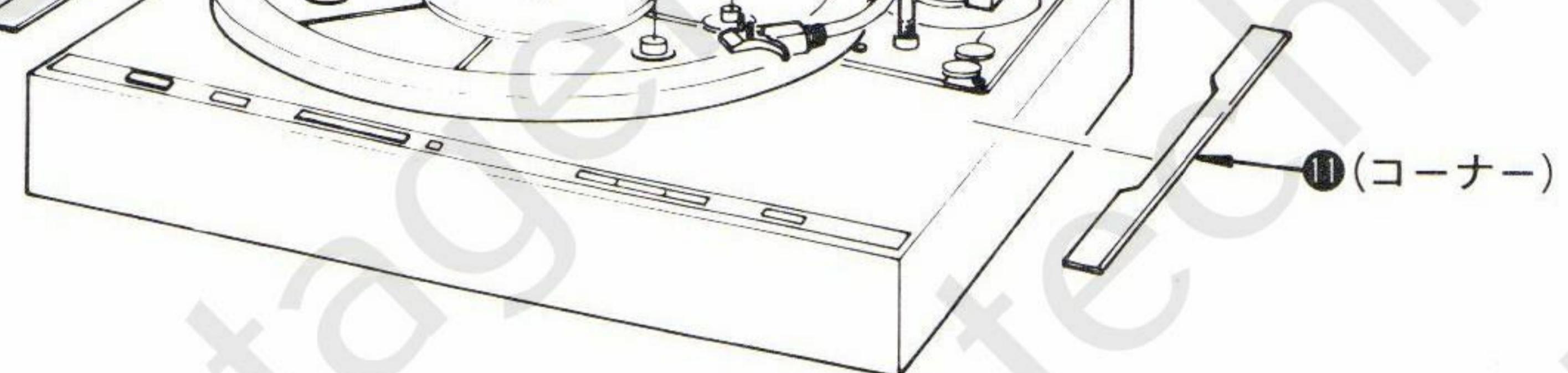
モーター軸へ傷をつけないように注意して、ターンテーブルを取り付けます。



ターンテーブルシートをのせます。

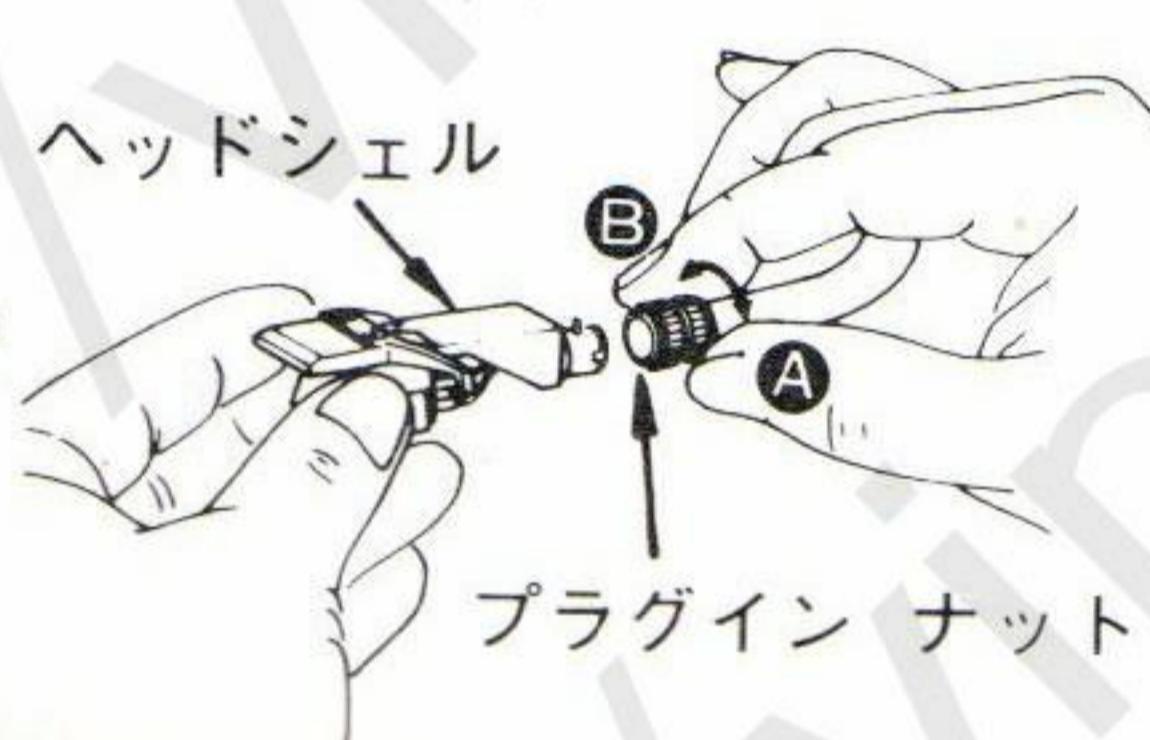


ダストカバーを取り付けます。

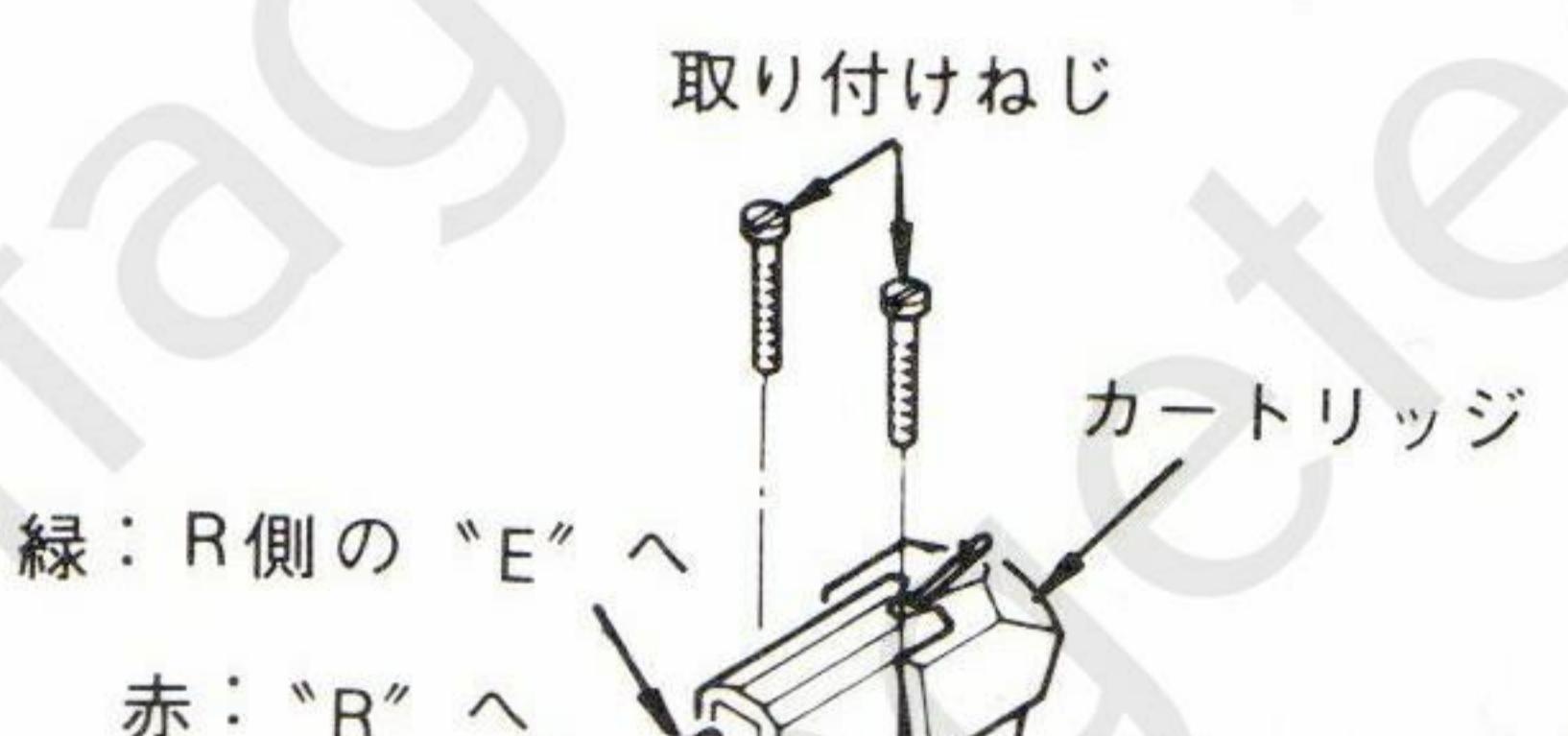


カートリッジの取り付け

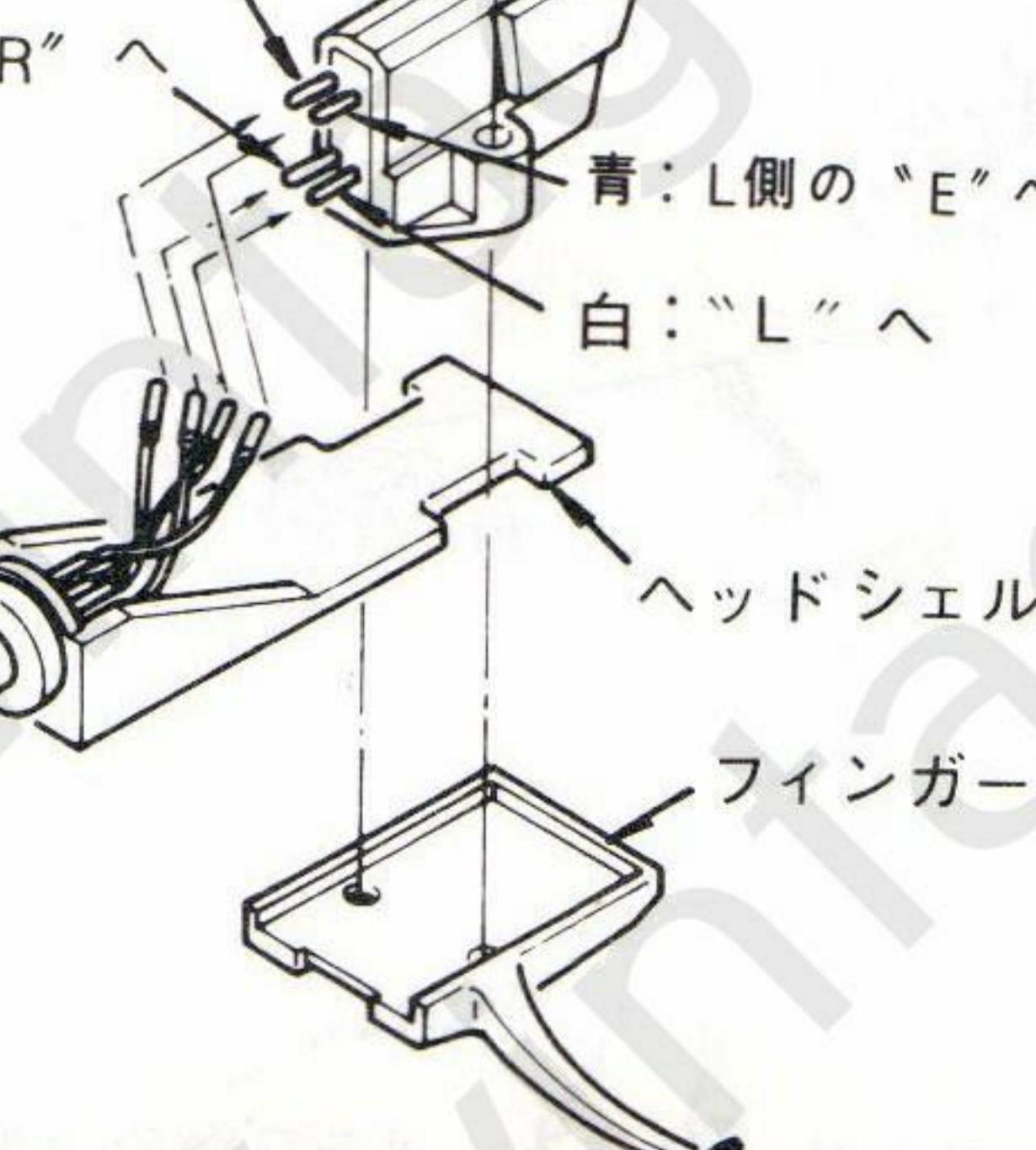
ヘッドシェルを取りはずします。



本機にはカートリッジが付いていませんので、お手持のカートリッジを本機のヘッドシェルまたはお手持のヘッドシェルに取り付けてください。



ヘッドシェルをトーンアームに取り付けます。



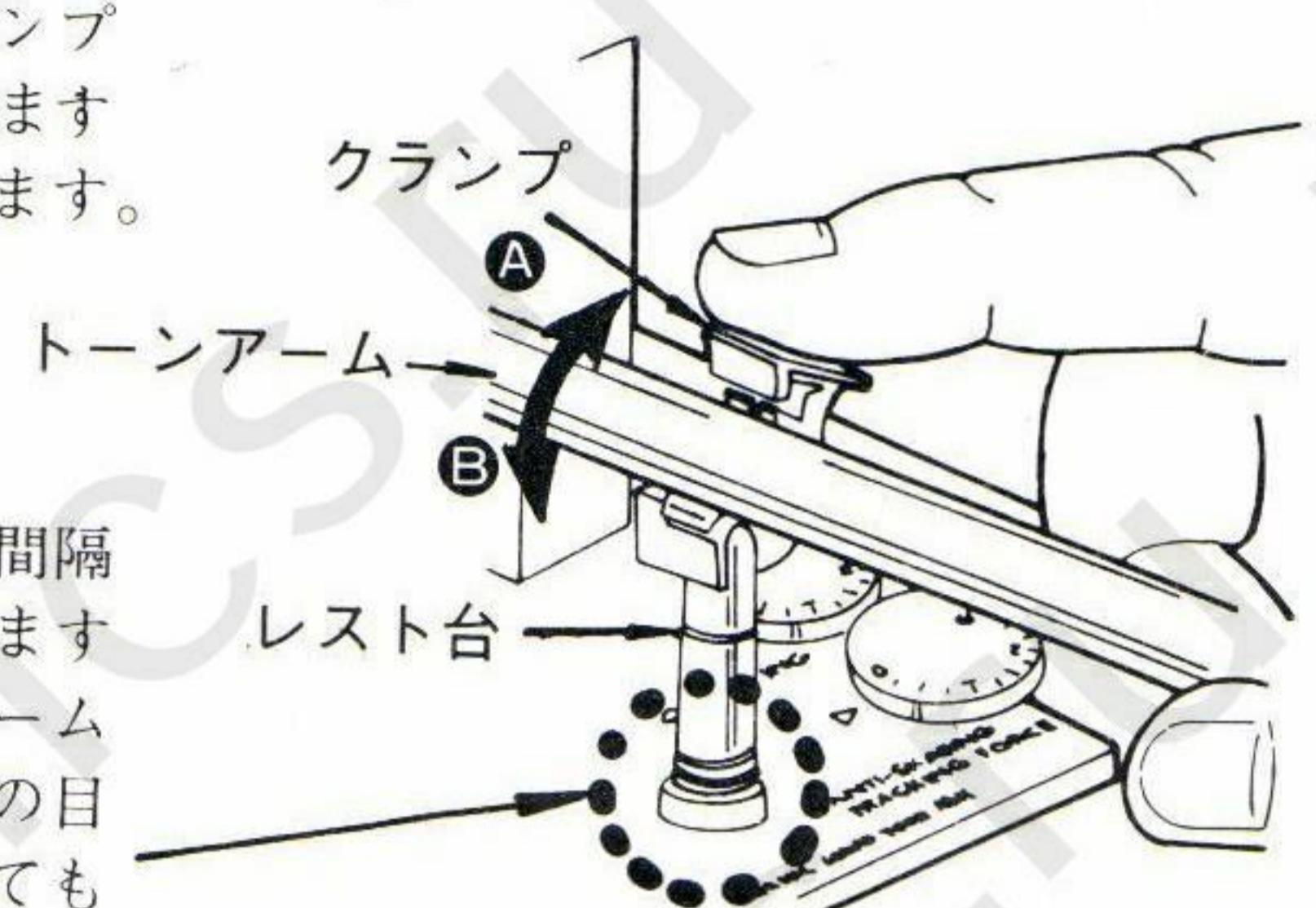
このあと3ページへ続きます。

カートリッジの取り付けねじをゆるく締めておき、「オーバーハング調整」(9ページ参照)をおこなってから、しっかりと固定してください。

ご準備

■ 安全

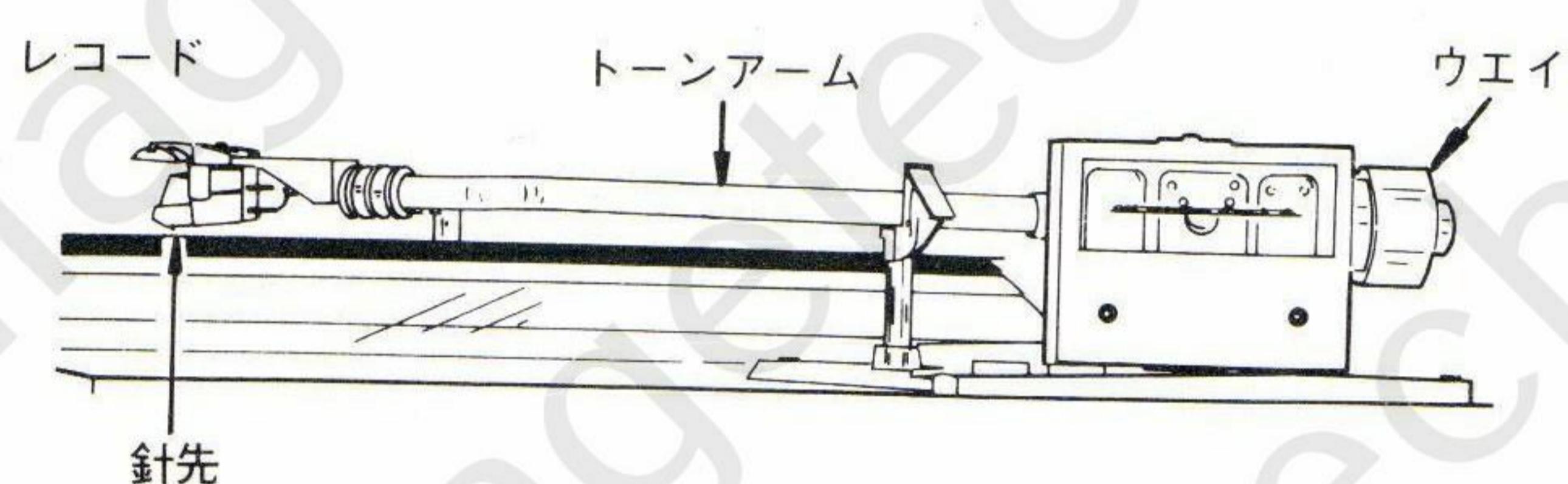
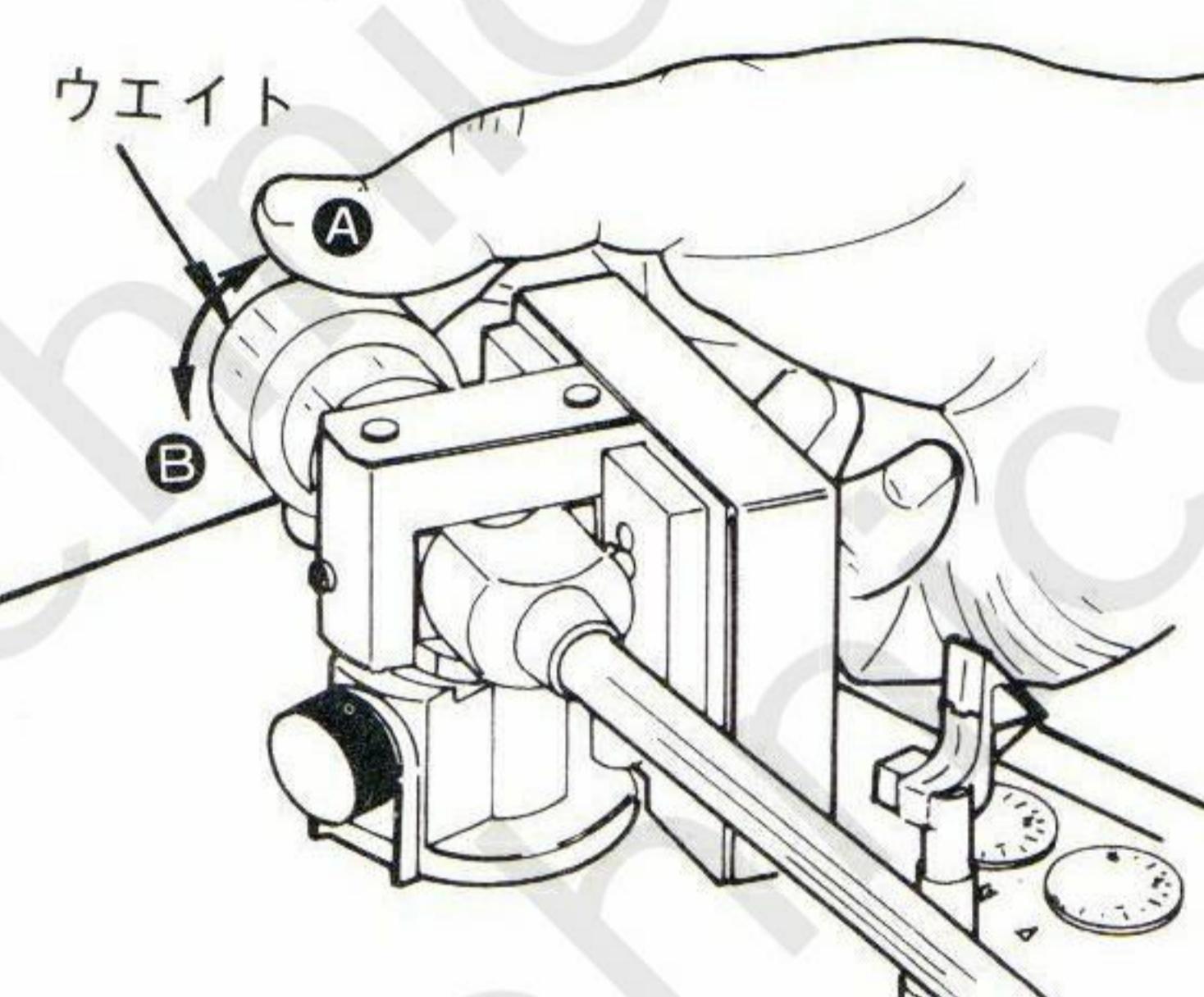
A 方向にしますとクランプがはずれ、B 方向にしますとクランプで固定されます。



レスト台の下に 1.5mm 間隔で目盛が印されておりますが、カートリッジとアームの高さ調整の関係をこの目盛で覚えておくと、とても便利です。

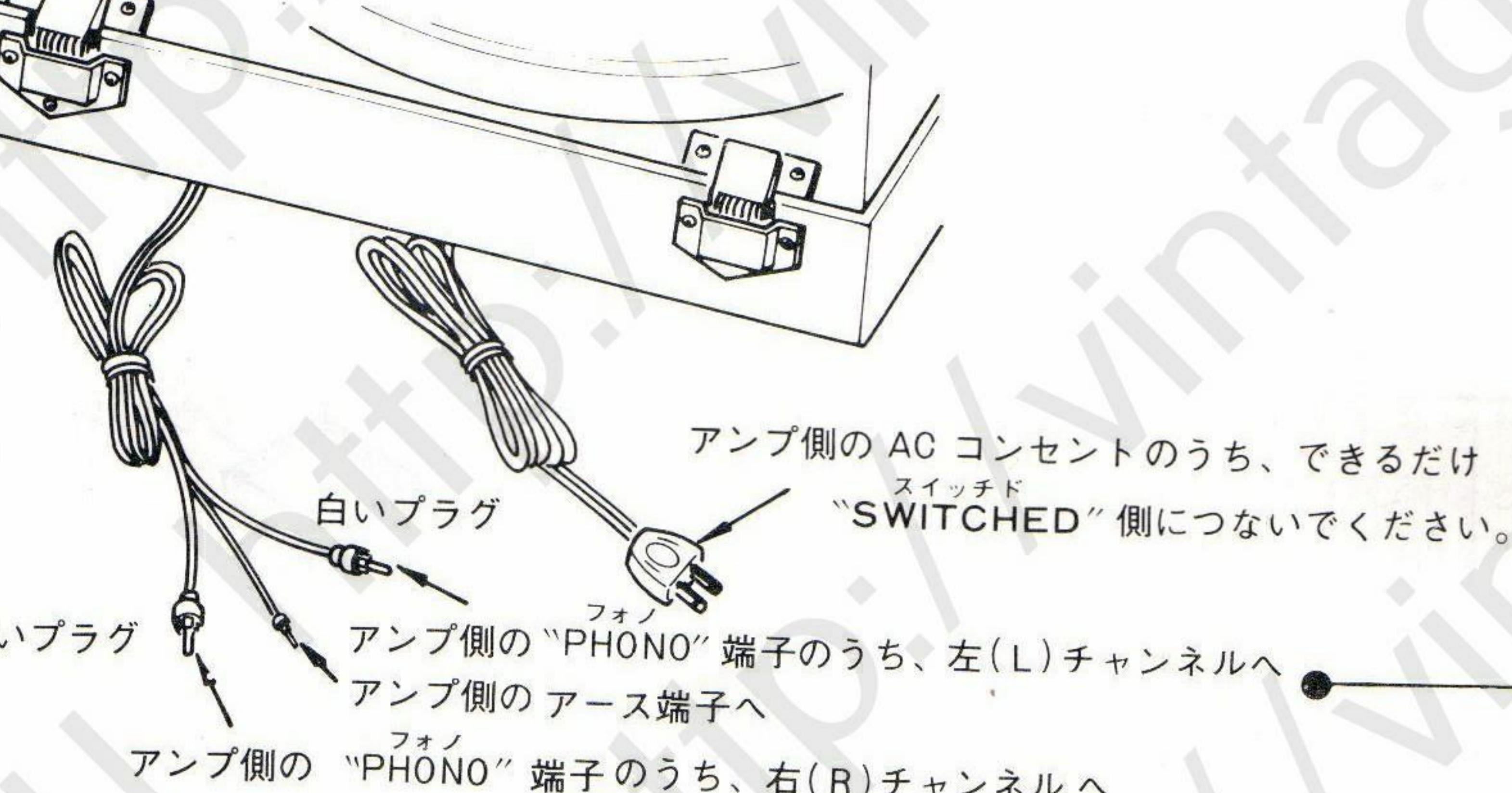
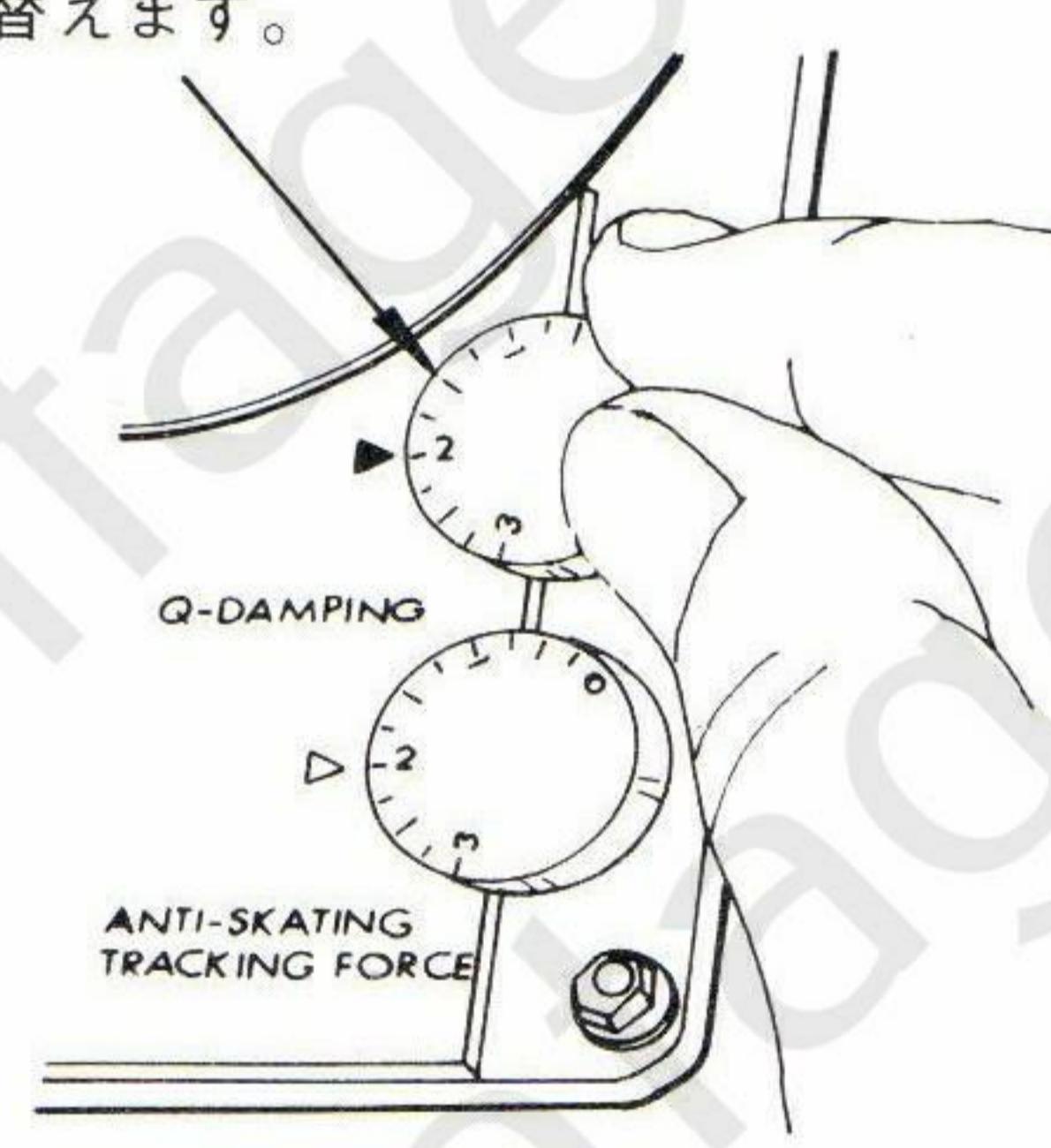
ウェイトを A 方向に回しますと針先がレコード面より浮きあがりますが、B 方向に回しますとレコード面に近づきます。

なお、特別重いヘッドシェルやカートリッジをご使用のかたで、ゼロ バランスがとれないときは、サブウェイトとして SW-Y7型（価格 1,500円／54年10月現在）が別売りされておりますのでご利用ください。



針圧と同じ数値になるよう、このツマミで切り替えます。

本機では、水平方向と垂直方向のトーンアームの Q ダンピングを一つのツマミで同時に調整できるようにしてあります。



アームの
POWER スイッチを "OFF-"
(ボタンが上方にもどされた)

クランプを

ターンテーブルにレ

ヘッドシェルのフックに指をかけてとき、針先がレコード面に触れるか触れるように、アーム固定用ねじでアームの

ゼロ バラ

針先をレコード

ウェイトの部分を回し触れるか触れない位置

トーンアームをレスト台にも

使用するカートリッジの針圧に合わせ
^{フォース} FORCE ツマミを回しますと、電気的
ケーティングの方も電気的に適正値が

Q ダンピ

針圧と同じ数値になるよう、^{キュ} Q-

キャビネット

キャビネットが水平となるよう

アンプへ

白いプラグの付いたコードをアンプ
ネルに、赤いプラグの方は右 (R)
なお、アース ワイヤーはアンプ側

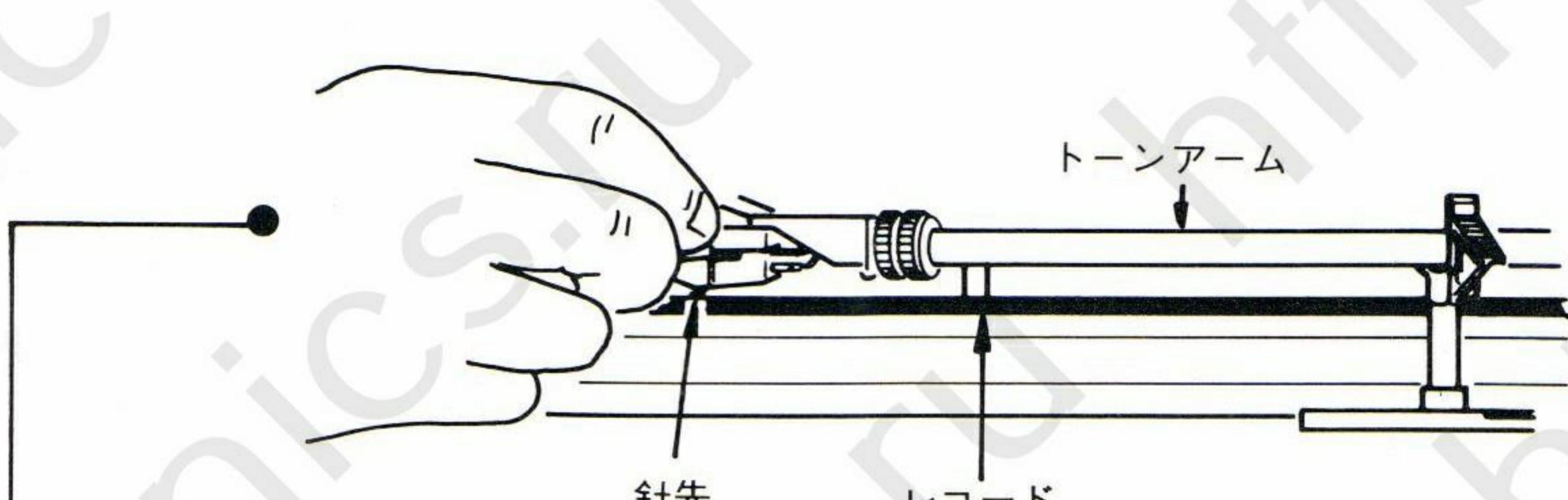
主要部分の名称および働き

レコードを聞くには（■プレーヤー部の操作

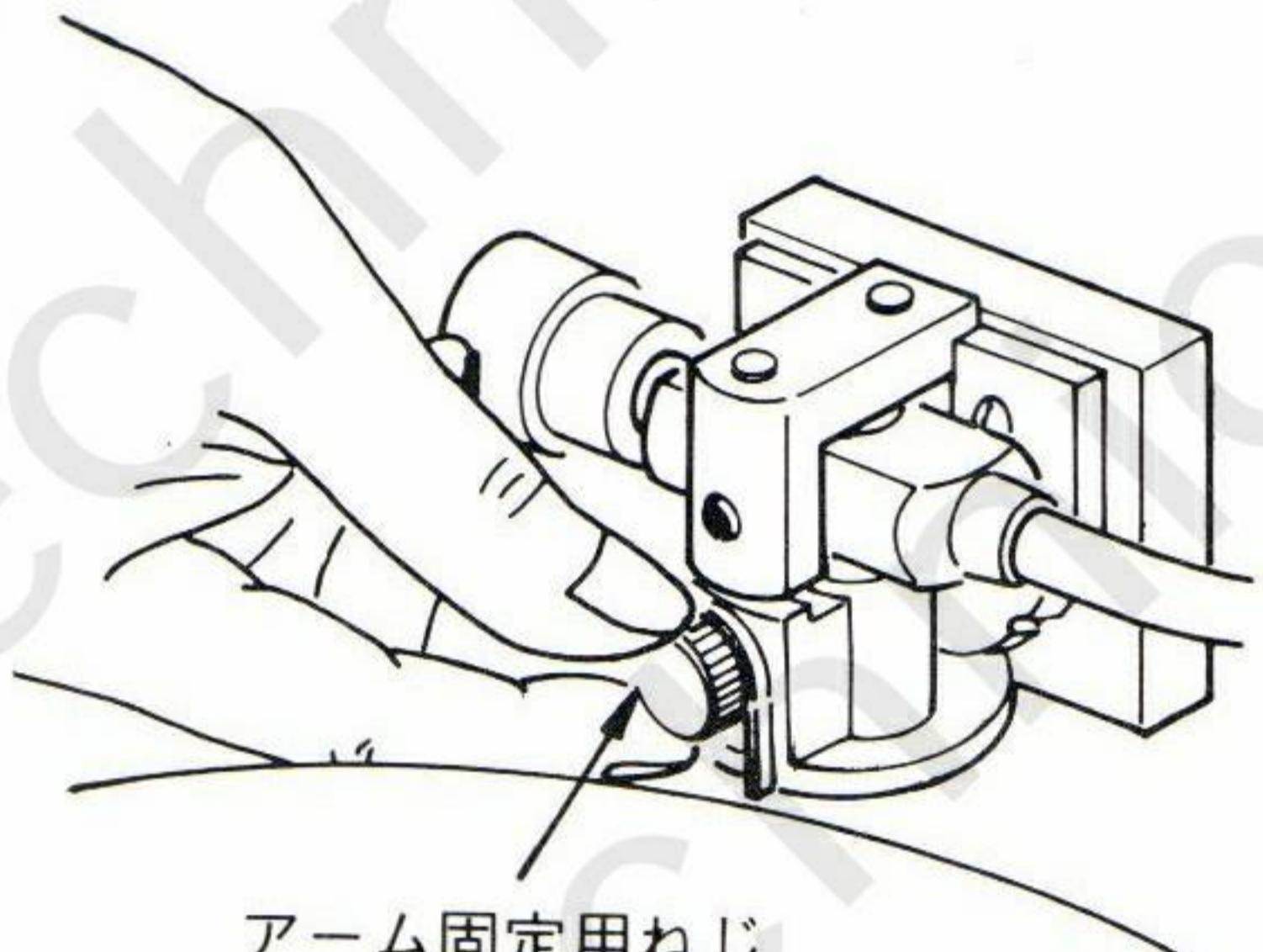
■アンプ部の操作

■レコードを上手に聞くコツ

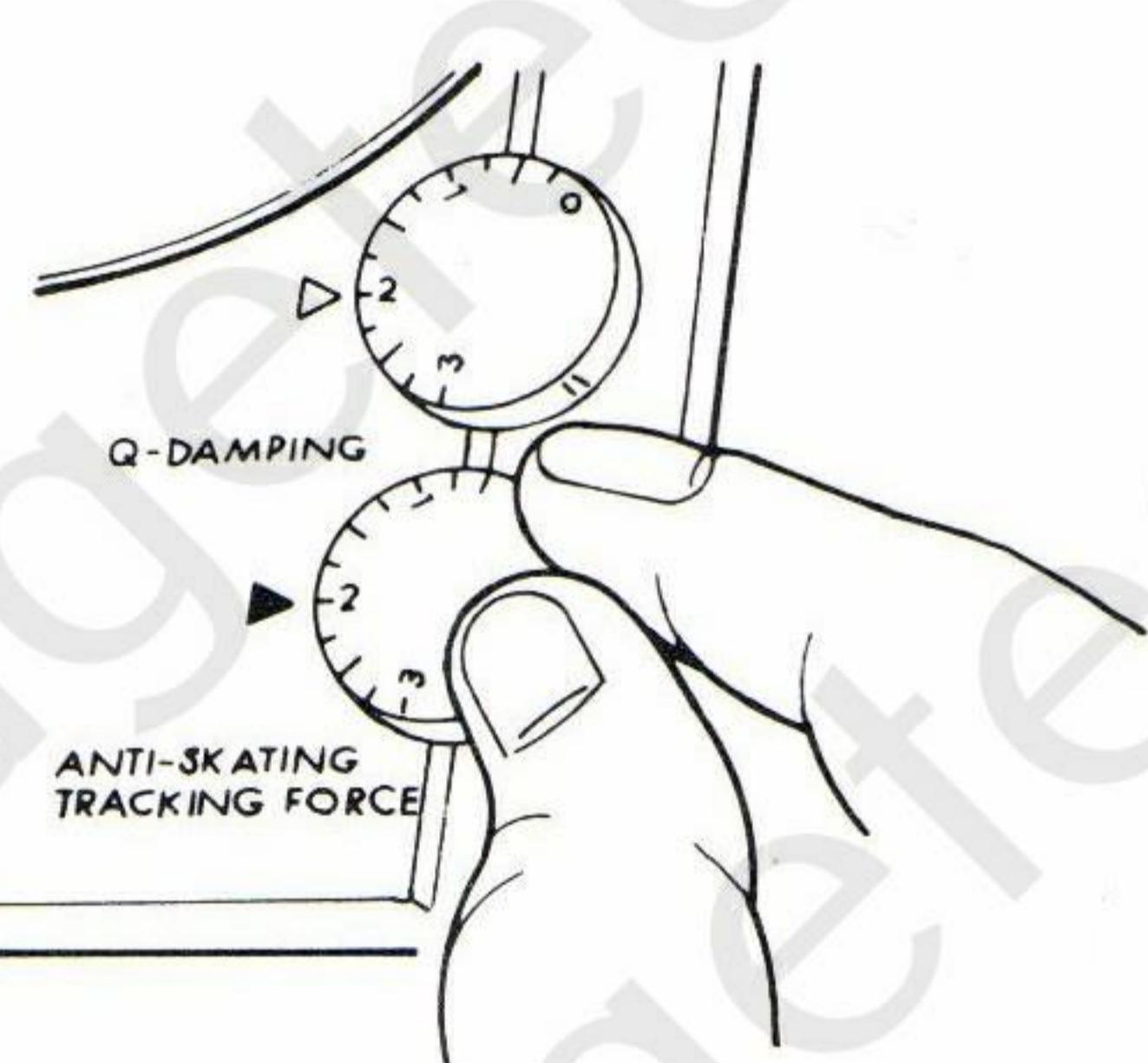
■レコードを録音する場合



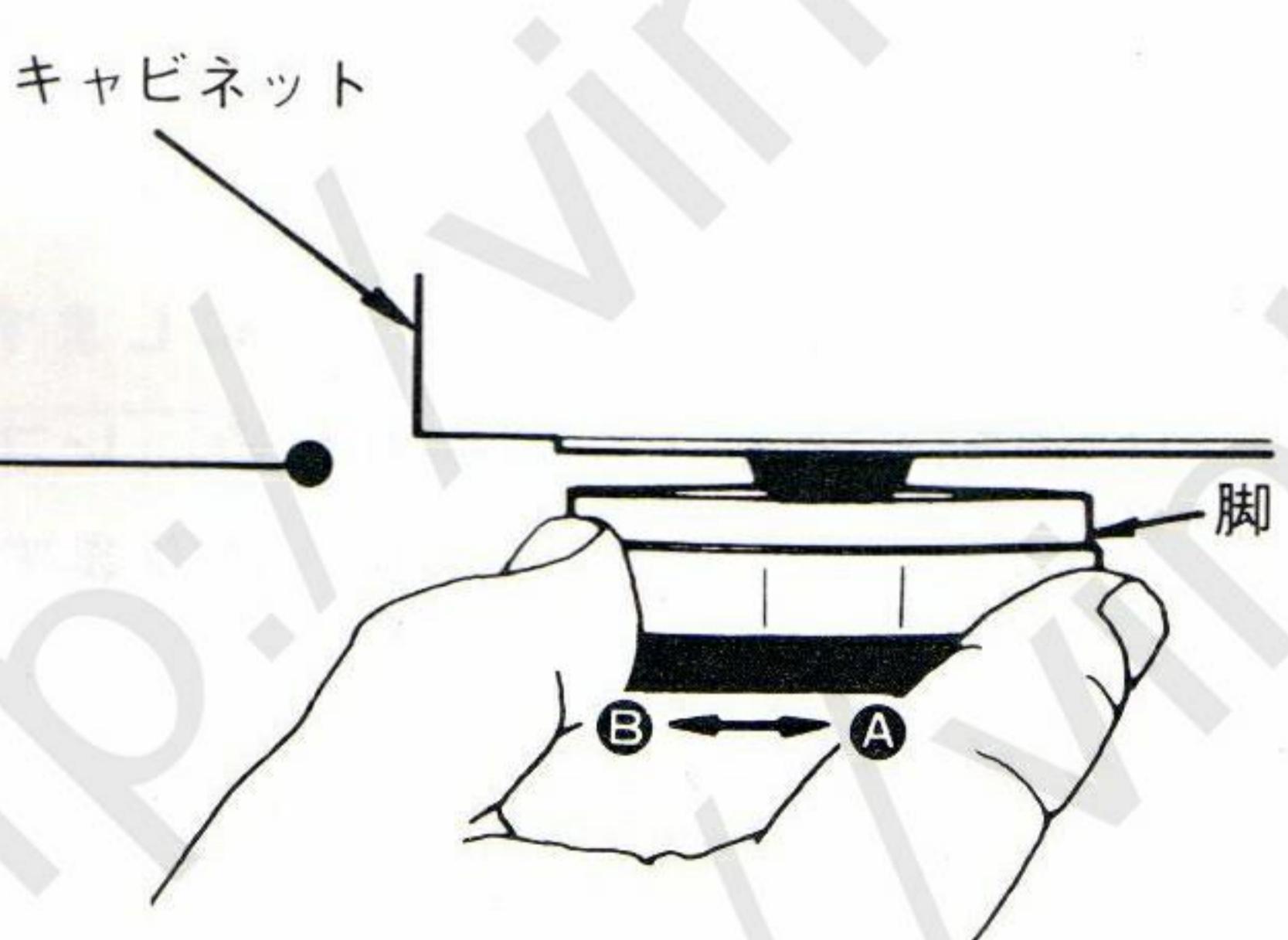
トーンアームが水平となるように、アーム固定用ねじでアームの高さを調整します。



針先を傷つけないためにも、トーンアームの固定用ねじをゆるめたり、締めつけたりする場合には、アームをレスト台に固定してからおこなってください。



使用するカートリッジに合わせてこのツマミを切り替えます。
(例)・針圧が2gのときには、このツマミを“2”に合わせます。



Ⓐ方向に回しますとキャビネットが低くなり、Ⓑ方向に回しますと高くなります。

調整

バランス "BALANCE" にします。
になります)

します。

ドをのせます。

アームをレコード面まで持つてゆ
状態でトーンアームが水平となる
を調整します。

調整

のせます。

先がレコード面に
エイトを止めます。

てクランプで固定します。

アンチ スケーティング ト racking
压が加わると同時に、アンチス
トされます。

調整

DAMPING ツマミを回します。

水平調整

の部分を回して調整します。

接続

"PHONO" 端子左 (L) チャン
ネルに接続します。
ース端子に接続してください。

ご

主要部分の名称および働き

■ 安
・
・
・
・
・
・

トーンアーム

このトーンアームは、エレクトロ ダイナミック サーボ トーンアームと呼ばれているもので、針圧、アンチスケーティング、Q ダンピングなどトーンアームの動作がすべて電気的におこなわれ、しかもそれが無接触のために機械的損失が全くなく、性能が大幅に向上いたしております。

スピード スイッチ

レコードに合わせ、ターンテーブルの速度をこのスイッチで切り替えます。スイッチを押（▲）しますと 45 回転レコードが、更にもう一度押しますとボタンが上方にもどされ（▼）、33⅓ 回転レコードが演奏できます。そしてスイッチを切り替えるたびに、それぞれのインジケーターが点灯します。

TT-START/STOP スイッチ

このボタンを押（▲）しますとターンテーブルが回転を始め、正規の回転数が得られて安定しますと、QUARTZ LOCK インジケーターが点灯します。ターンテーブルの回転を止める場合には、このボタンを更にもう一度押してください。QUARTZ LOCK インジケーターが消えてターンテーブルの回転が止まります。

POWER スイッチ

ON : このボタンを押（▲）しますと、スピード インジケーターが点灯してセットに電気がはいったことを表示するのと同時に、トーンアームに針圧が加えられます。

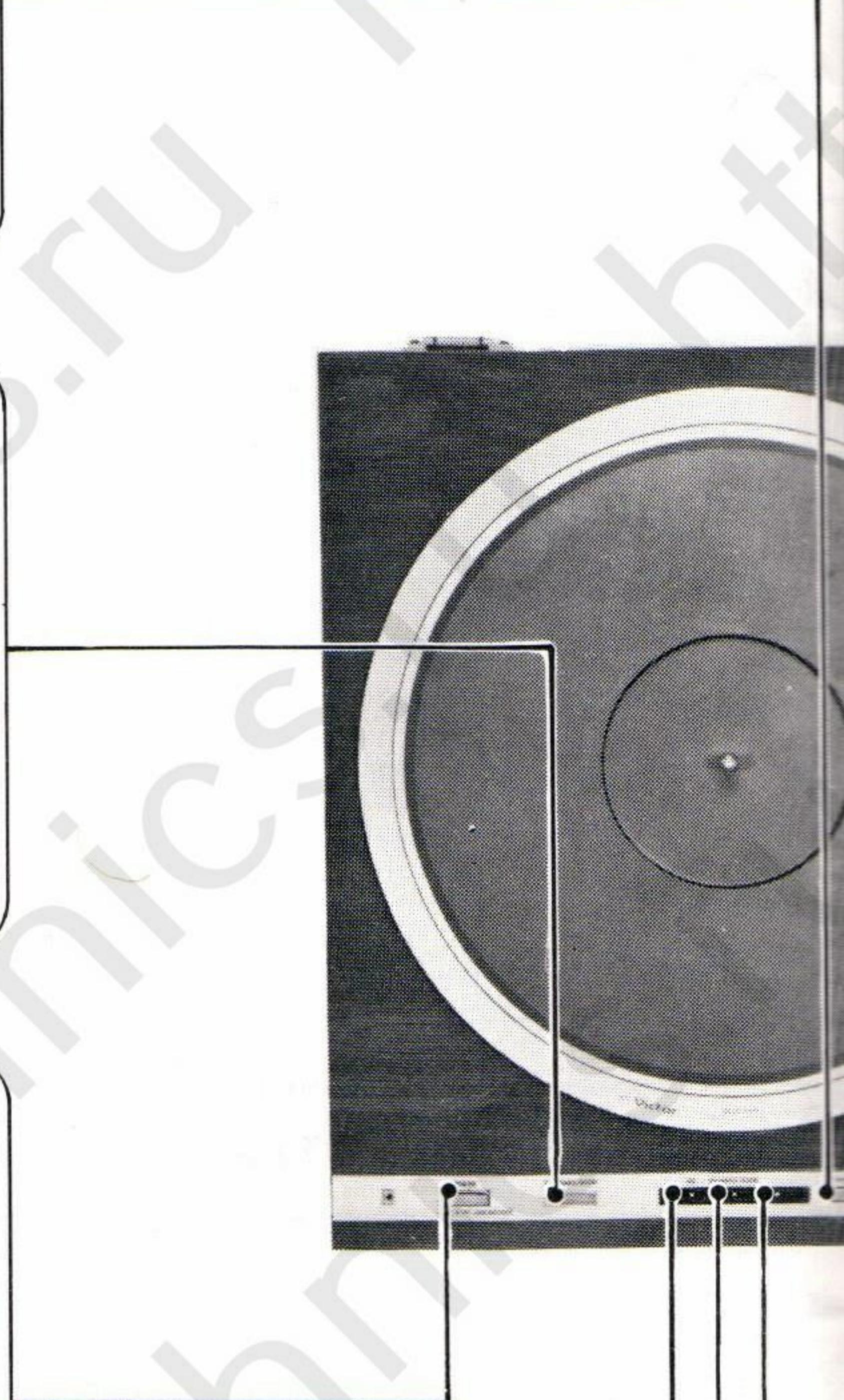
OFF-ARM BALANCE : 電気を切る場合には、このボタンを更にもう一度押してください。

ボタンが上方にもどされ（▼）、スピード インジケーター および QUARTZ LOCK インジケーターが消えて、針圧も “0”（ゼロ）となります。

(注) • レコード演奏中に POWER スイッチを “OFF” にしますと、針圧がゼロとなってアームが自由運動をするようになるため、レコード演奏はできなくなり、レコードも傷をついてしまうことがあります。

従って POWER スイッチを “OFF” にするときには、かならずトーンアームがレスト台にクランプされていることを確認してください。

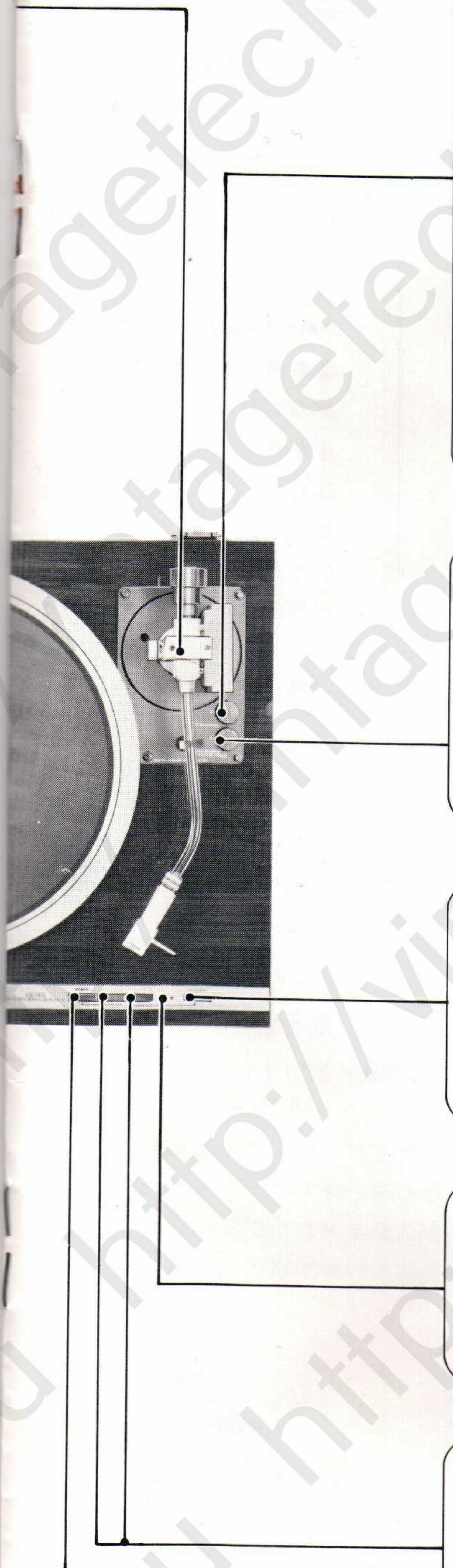
• 本機では、POWER スイッチを “OFF” にしてもわずかな電流が流れているため、0.9W (50Hz) の電力が消費されています。従って使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くか、またはアンプ側のコンセントを使用されているかたは、“SWITCHED” 側についてアンプの電源と一緒に切ってください。



スピード インジケーター (45)
QUARTZ LOCK インジケーター
スピード インジケーター (33)

リジェクト
REJECT スイ
レコード演奏を途
このボタンを押し
レスト台にもどり
の回転はとまりま

主要部分の名称および働き



Q DAMPING ツマミ

普通のトーンアームの低域共振点は、約 5 Hz～10Hz 近辺にあります。その共振点のピークが高すぎると、外部から受ける振動や音圧により、トーンアームがその周波数で特別に大きく振動してしまったり、レコードのそりや偏芯の影響も容易に受けてしまい、音溝に対して忠実にトレースできなくなってしまいます。

そこでトーンアームの水平方向、垂直方向の動きを制動し、共振点のピークをさげる働きをするのがこのツマミです。従って Q DAMPING キュー ダンピング が働きますと、

1. トレース能力 および 音質の向上
2. ハウリングに強い
3. S/N および ウワ・フラッターの向上

などの効果がありますので、針圧と同じ数値になるようにこのツマミで調整してください。

ANTI-SKATING, TRACKING FORCE ツマミ

使用するカートリッジの針圧に合わせてこのツマミを切り替えますと、電気的に針圧が加わると同時に、求心力によってトーンアームが内側に引っ張られるようとする力を打消し、針先のすべりやレコードの内周溝に加わる力を防止するアンチスケーティングも自動的に適正值にセットされます。

アップ / DOWN スイッチ

トーンアームをレコード面に降下させたいときには、このボタンを押（■）してください。UP / DOWN インジケーターが消えます。逆に持ちあげるときは、更にもう一度押してください。インジケーターが点灯します。

アップ / DOWN インジケーター

このインジケーターはトーンアームがあがっているときに点灯し、さがると消えますが、REJECT または オートリターンのときには点灯しません。

トーンアーム送り スイッチ

トーンアームを手で移動させることは無論できますが、そのほかに下記のボタンを押すことによってトーンアームを任意の位置まで移動させることができますので、ダストカバーをしたままプレーヤーの操作ができる新しい機構です。

<: このボタンを押（■）している間はトーンアームが左へ移動しますが、手を離しますと止まります。

>: このボタンを押（■）している間はトーンアームが右へ移動しますが、手を離しますと止まります。

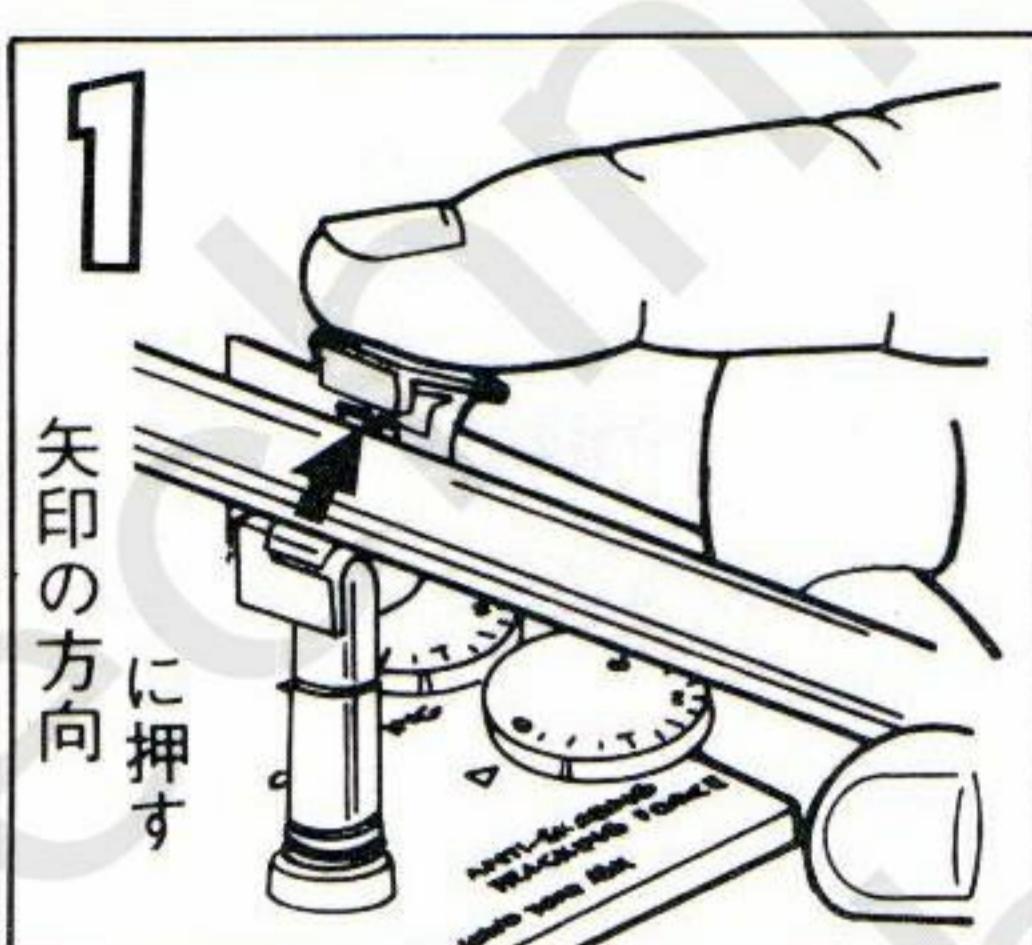
ツチ

中で中止する場合、
ますと、アームは
、ターンテーブル
す。

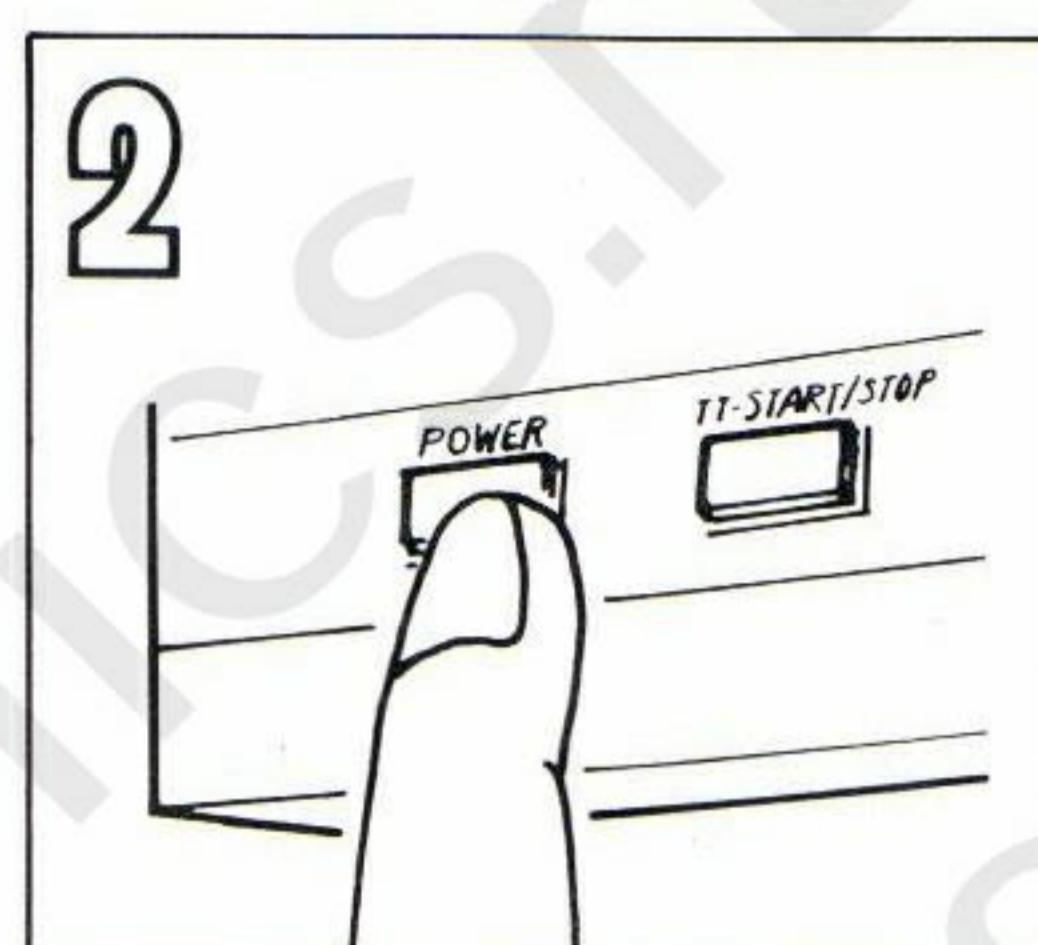
レコードを聞くには

(説明のないツマミに関しては、「主要部分の名称および働き」)

■ プレーヤー部の操作

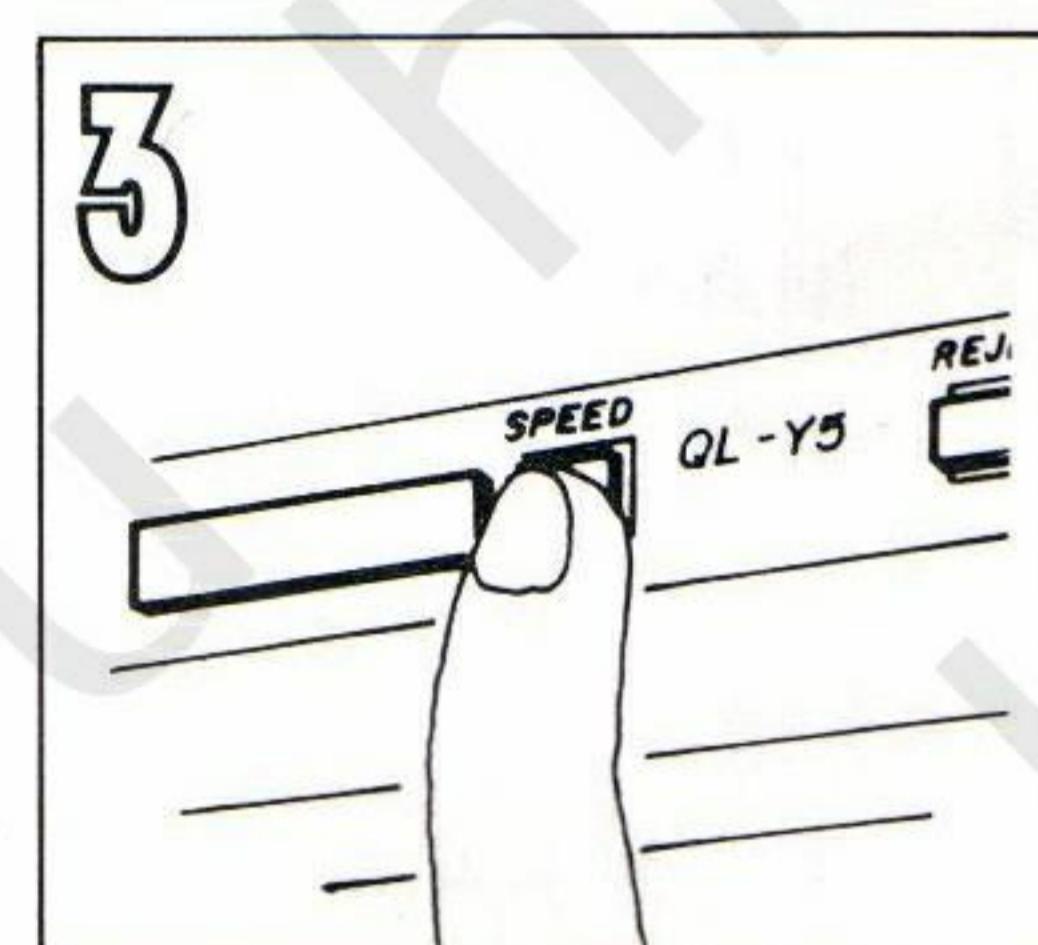


レコードをターンテーブルにのせ、レスト台のクランプをはずします。



POWER スイッチのボタンを押(■)します。

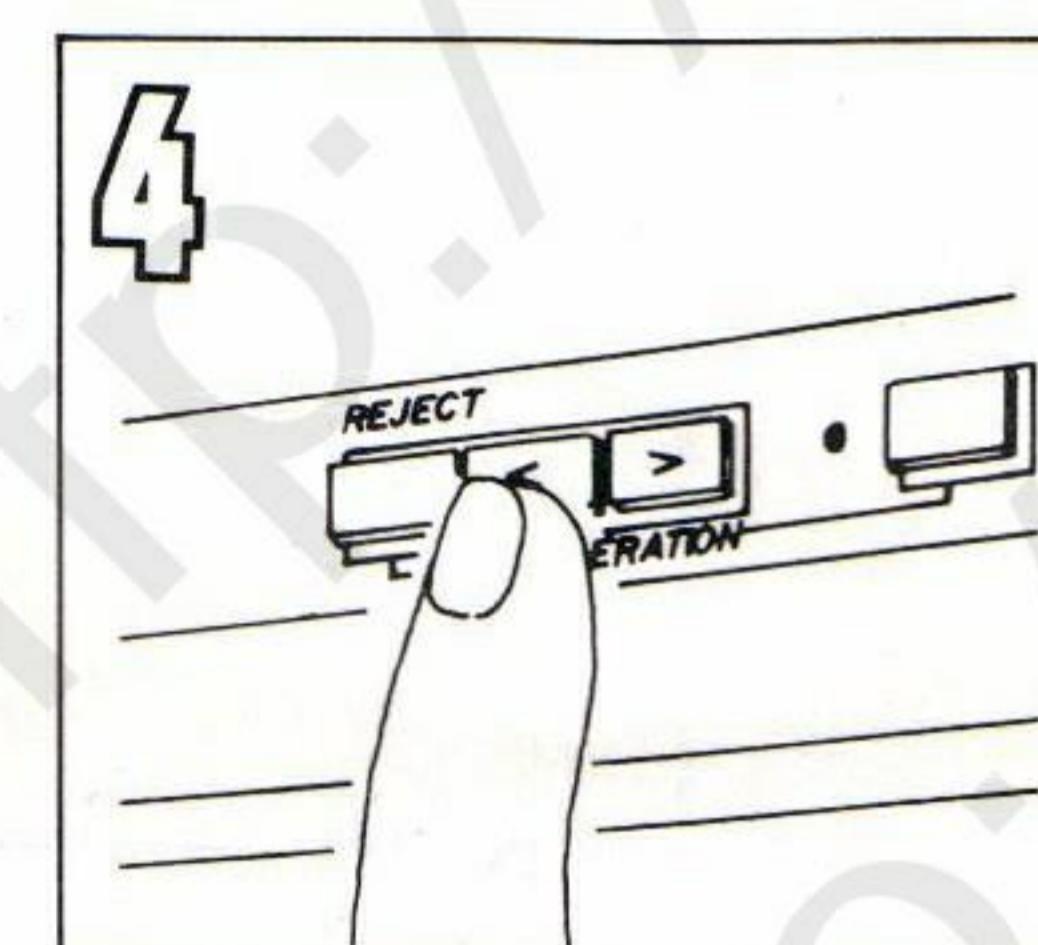
(注)・レコード演奏中にPOWERスイッチを"OFF"にしないでください。
"OFF"にしますと針圧が0(ゼロ)となるため、レコード演奏ができなくなります。



レコードの回転数に合わせ、ターンテーブルの速度を SPEED スイッチで切り替えます。

45回転レコード：
SPEED スイッチのボタンを押(■)してください。

33⅓回転レコード：
SPEED スイッチのボタンを更にもう一度押してボタンを上方にもどし(■)してください。



トーンアーム送りスイッチの"〈"ボタンを押(■)し続け、希望する位置までトーンアームが左へ移動したときに手を離します。

なお、トーンアームを微小に動かす必要があったときには、トーンアーム送りスイッチを軽くトントンと叩くよう押してください。

■ アンプ部の操作

- POWER スイッチを "ON" にします。
- SOURCE スイッチを "PHONO" にします。(アンプによっては "SELECT" となっているものもあります)
- アンプ側に SPEAKERS スイッチがあれば、スピーカーのつながる位置に切り替えます。
- TAPE MONITOR スイッチを "OFF" にします。
- レコード演奏を始めます。音量は VOLUME ツマミで適当に調整してください。
- 音質調整 ツマミでお好みの音質となるように調整します。

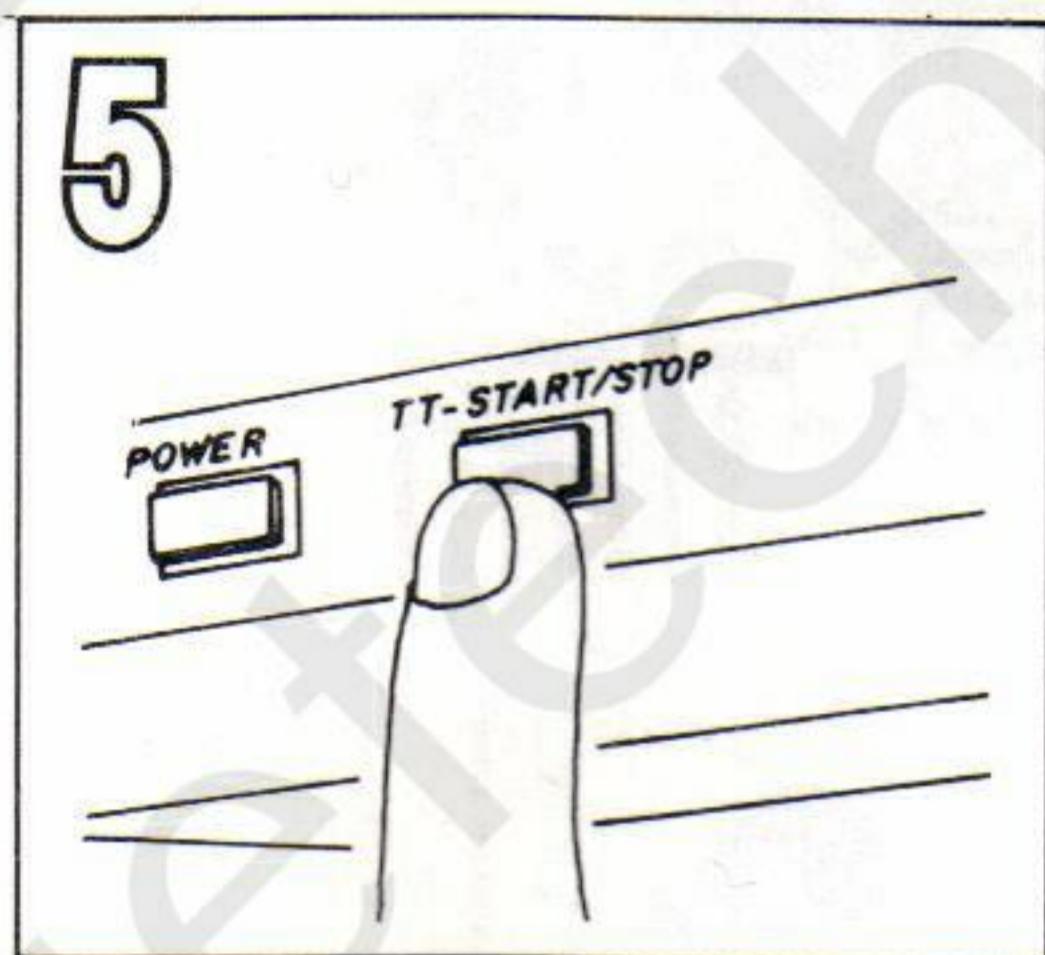
(注)・レコードに針先をのせたまま、電源を切らないでください。

■ レコードを上手に聞くコツ

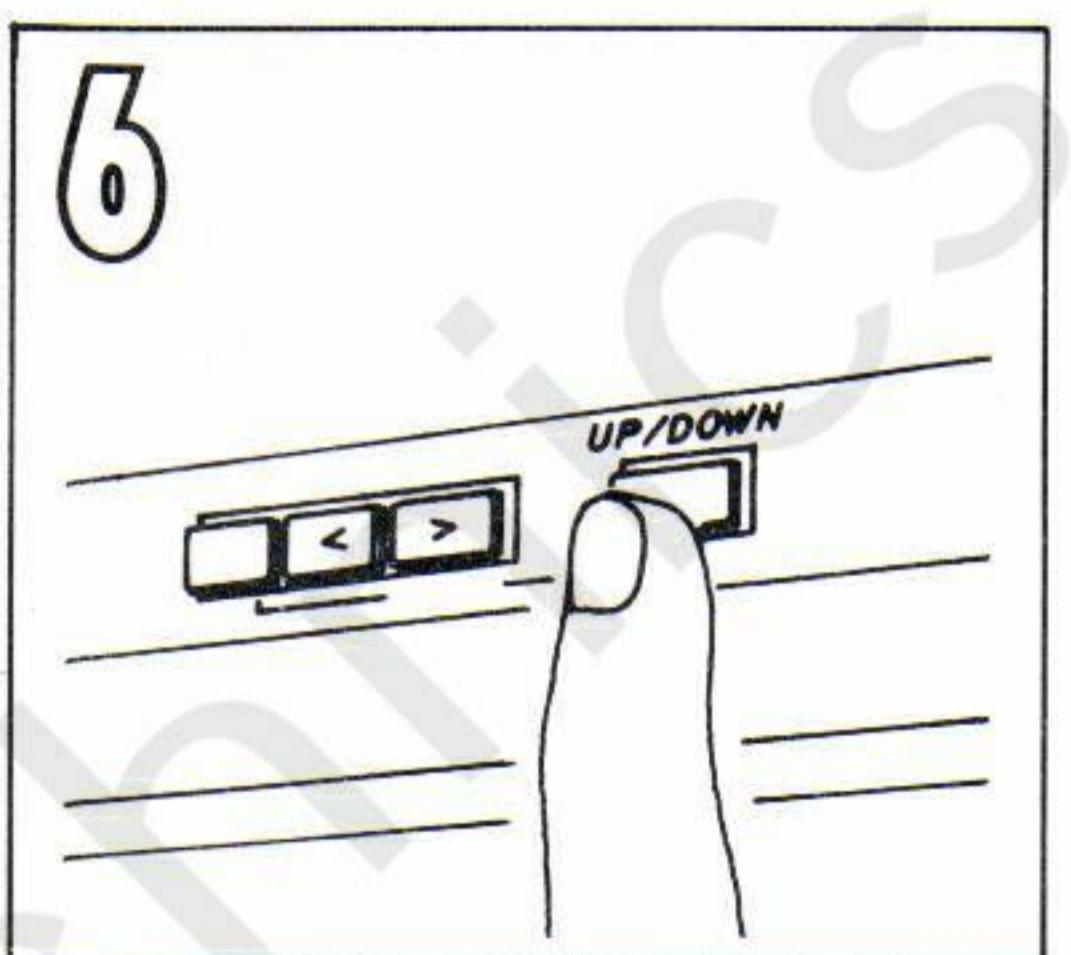
- レコードにとって一番の大敵は、ホコリです。
針先のホコリは針先洗浄液(市販品)で、またレコードはレコードクリーナー(布に湿気を帯びさせて使うものが良い)で溝のホコリをきれいにふきとります。
- 針圧が軽すぎると"音とび"を起こしたり、音が歪んだりします。レコードは常に適正針圧でお聞きください。
- プレーヤーがスピーカーとくっつきあってたり、振動の伝わりやすい所に置いていますと、ハウリング(一種の発振現象で「ワーン」という大きな音)を起こす恐れがあります。



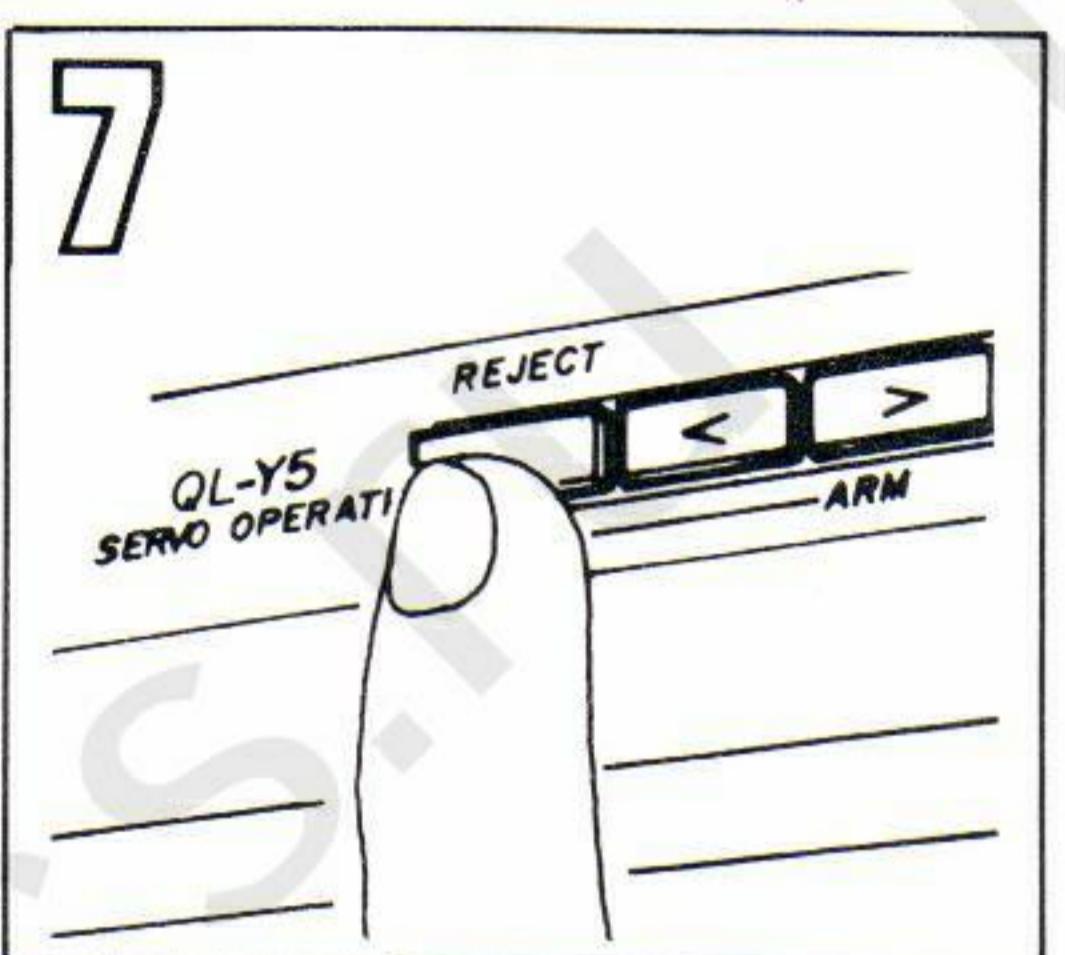
の項 5、6 ページをご参照ください)



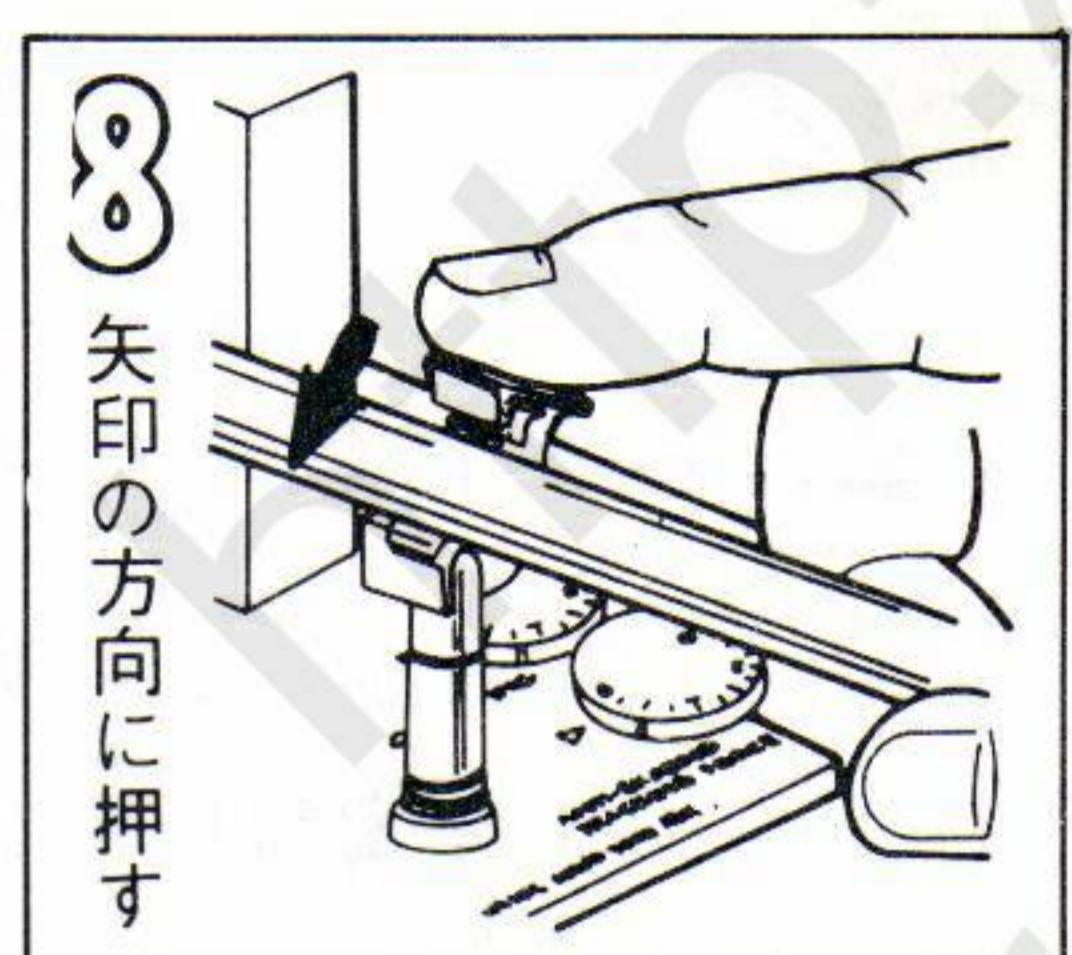
ターンテーブルの略 スタート ストップ
TT - START / STOP
スイッチのボタンを押
(■) します。
ターンテーブルが正規
の回転数になりますと、
QUARTZ LOCK イ
ンジケーターが点灯し
ます。



アップ ダウン
UP / DOWN スイッチ
のボタンを押 (■) し
ます。
トーンアームが静かに
レコード面に降下し、
レコード演奏が始まり
ます。



レコード演奏が終ると
自動的にトーンアーム
はレスト台までもどさ
れます。レコード演
奏を途中で中止する場
合には、REJECT ス
イッチのボタンを押す
(■) か、UP / DOWN
スイッチのボタンを更
にもう一度押してトー
ンアームを持ちあげて
ください。



トーンアームがレスト
台にもどされたあと、
クランプしてトーンア
ームを固定し、
POWER スイッチのボ
タンを更にもう一度押
してボタンを上方に
もどし (■)、セットの
電気を切ってください。

■ レコードを録音する場合

テープデッキを別にご用意ください。

1. テープデッキ および アンプの POWER スイッチを "ON" にします。
2. 「アンプ部の操作」の項 (7 ページ) をご参照のうえ、レコードがかけられる状態にしておきます。
3. 「プレーヤー部の操作」の項 (7、8 ページ) をご参照のうえ、録音したいレコードをかけてください。
4. 3 ヘッド テープデッキでモニター (録音されていく様子を聞きながら) 録音する場合には TAPE MONITOR スイッチをモニターの状態にしますが、それ以外の場合は "OFF" にしておいてください。
5. テープデッキ側を録音状態にします。録音レベル (録音されるときの音の大きさ) の調整は、アンプ側の VOLUME ボリュームではできませんので、テープデッキ側でおこなってください。

なお、詳細については、テープデッキ側の「取扱説明書」をご参照ください。

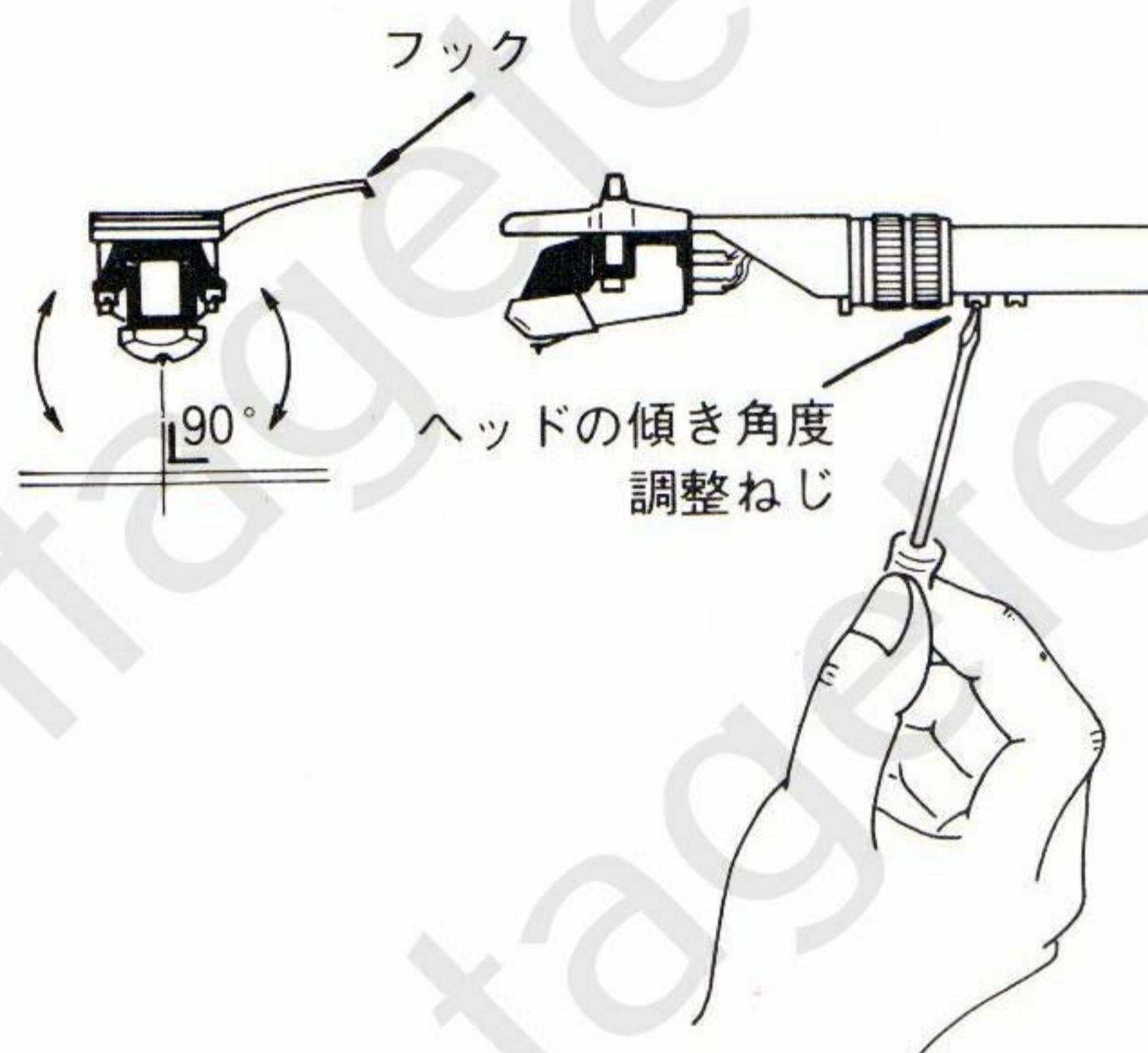
調整

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシェルを取り付けたり、交換したときにのみおこなうようにして、普段はいじらないでください。

■ ヘッドシェル取り付け角度微調整

針先がレコード面と直角にならない場合には、ヘッドシェル固定ねじをゆるめて再調整してください。

この場合の直角度 (90°) は、目視にて十分です。



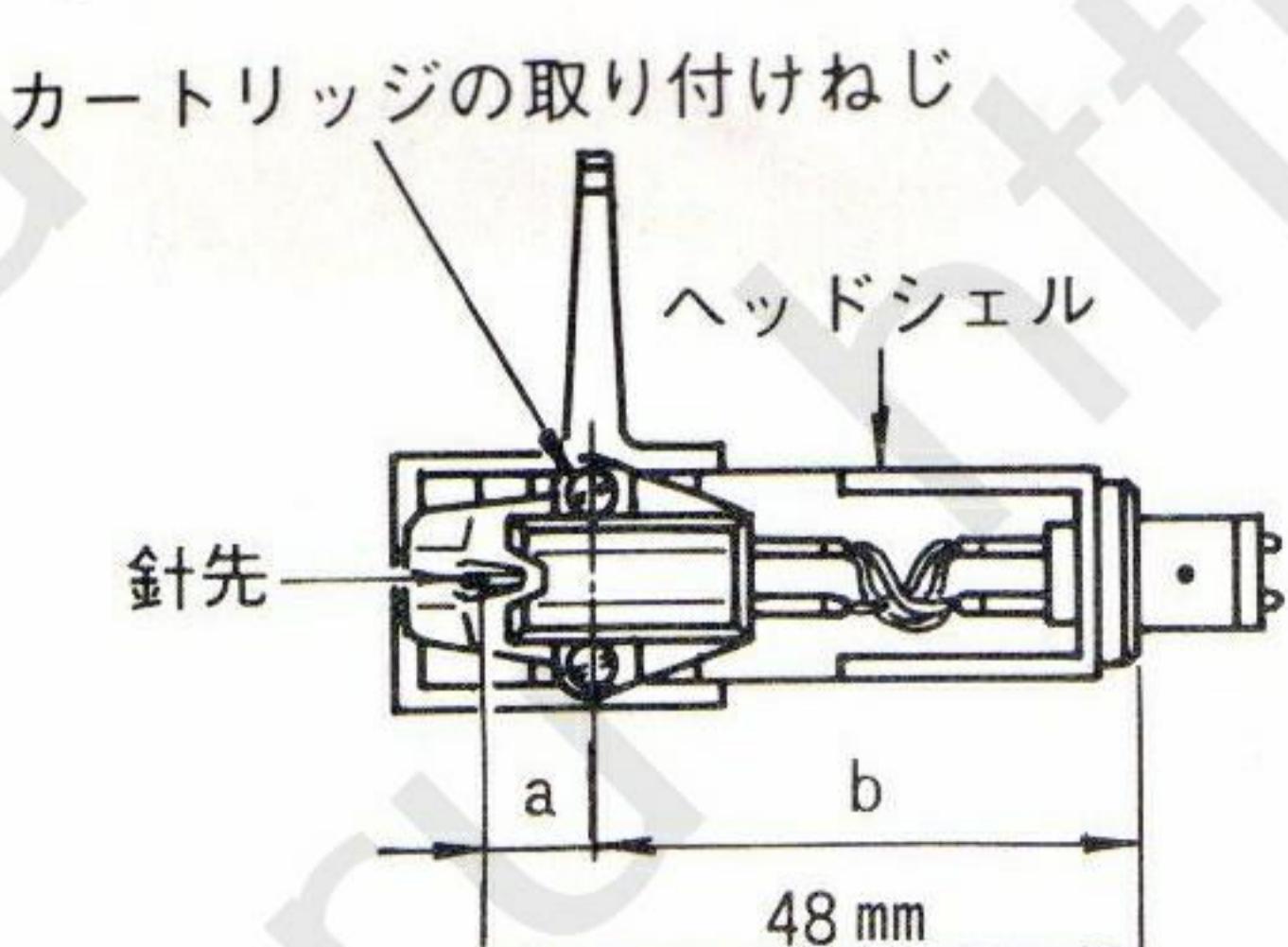
■ オーバーハング調整

本機のヘッドシェルでオーバーハングを調整する場合、図のようにヘッドシェルの端から針先までの寸法が 48 mm となるようにセットしてください。

本機のヘッドシェル上面には、ヘッドシェルの端からカートリッジの取り付けねじまでの寸法 (b) が mm 単位で表示されています。

カートリッジの取り付けねじから針先までの寸法を (a) mm としますと、この寸法は一定しておりませんので、 48 mm からその寸法を差し引いたものをヘッドシェルの目盛に合わせれば、ものさしを使わなくてもオーバーハングの調整ができます。

なお、 $\pm 1\text{ mm}$ 程度の誤差は、性能上問題ありません。



保証とアフターサービス

■ 保証書には、購入年月日などが必要

この商品には、保証書を別途添付しております。

保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および 記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。



■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より 1 年間です。

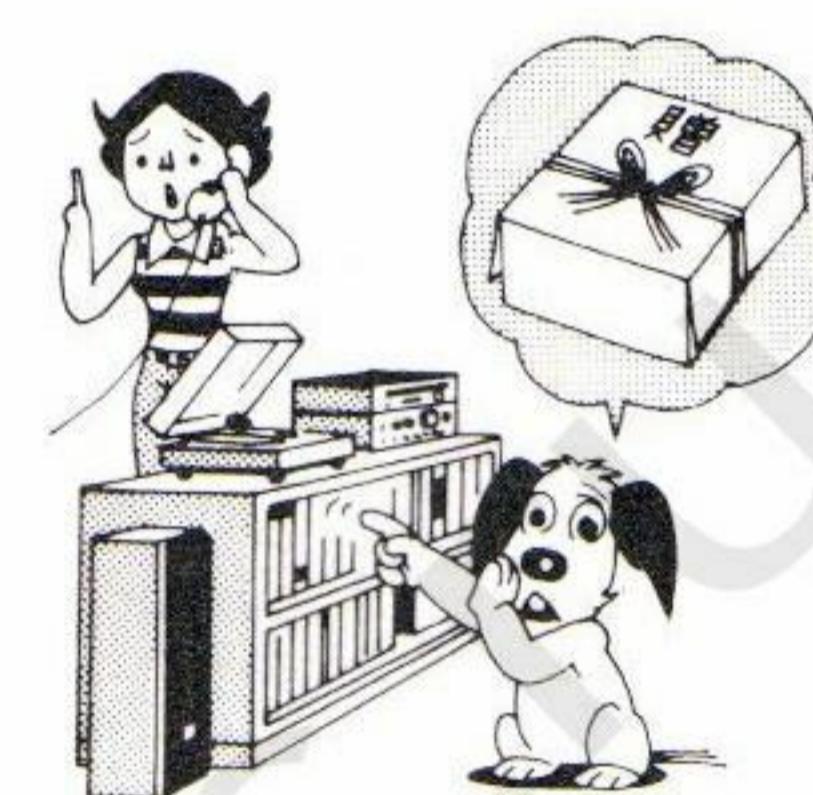
保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。

そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



■ アフターサービスについてのお問い合わせ

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクター サービス窓口案内」をご覧のうえ、もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後 8 年です。

この期間は、通商産業省の指導によるものです。

なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



■ 修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度 「故障? と思う前に」 の項をよくご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・メーカー名、品名、型名
- ・おなまえ、おところ
- ・電話番号
- ・故障状態をできるだけ詳しく



故障？と思う前に



おや？ 故障かな？ と思ったら………
修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください

■ 音がでない



コードがはずれていませんか。



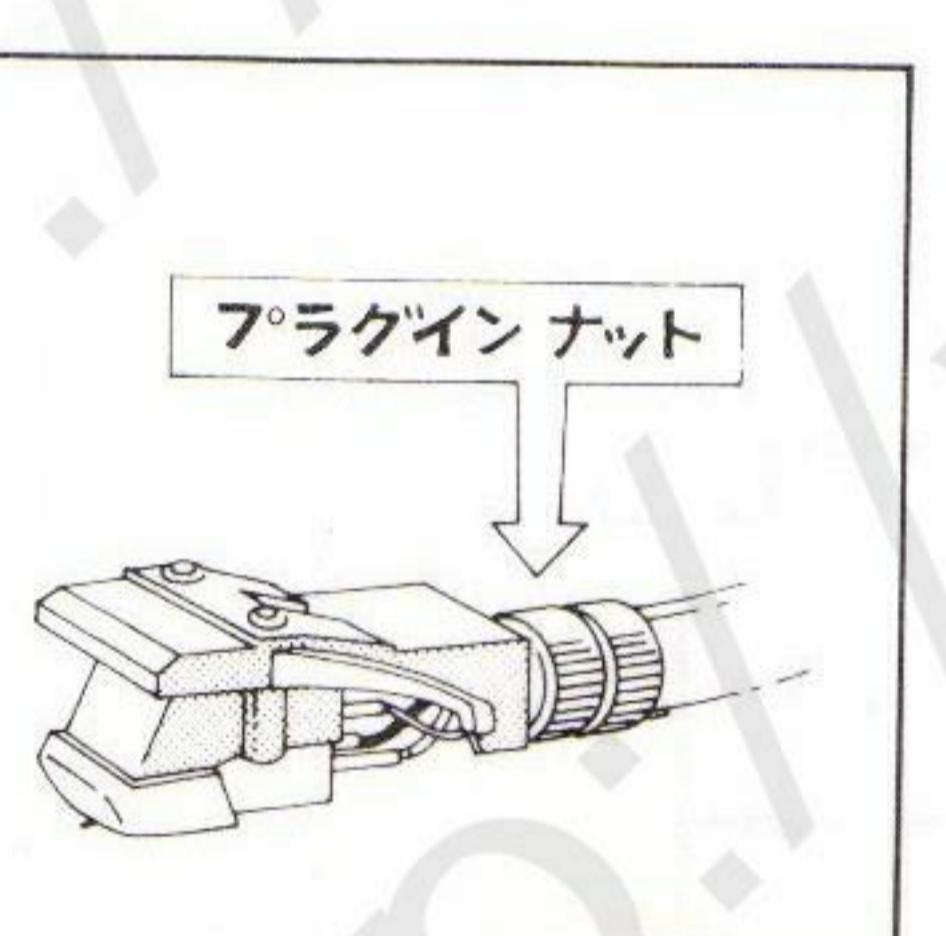
コードは忘れず、確実に。



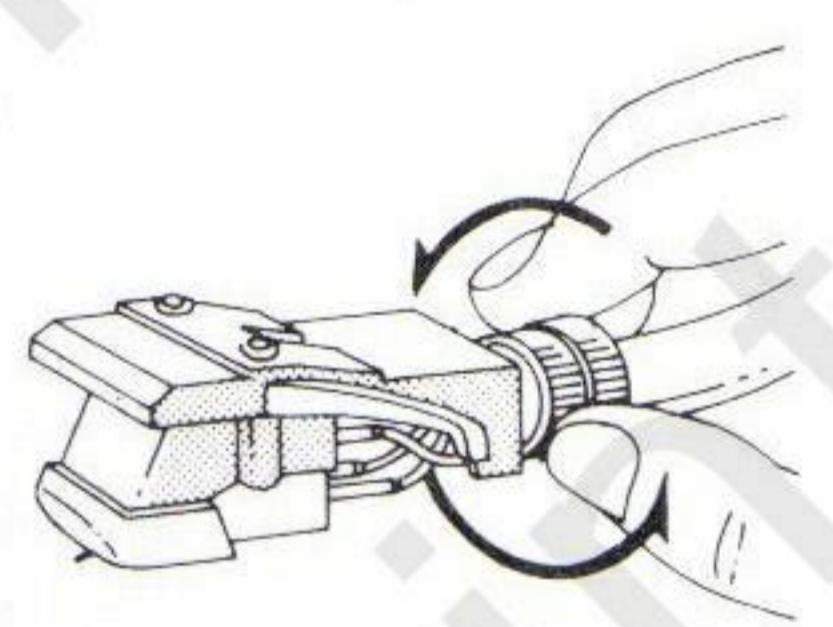
接続を間違えていませんか。



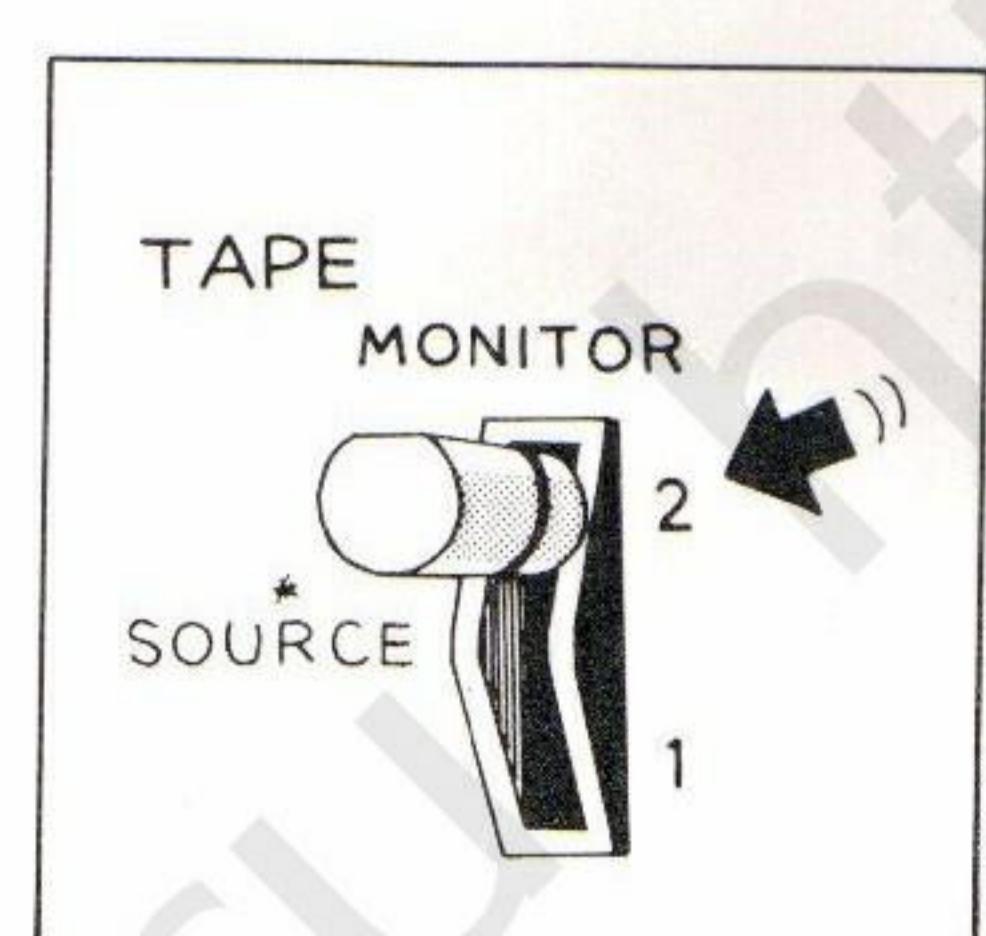
「準備」の項（3、4 ページ）をご参照ください。



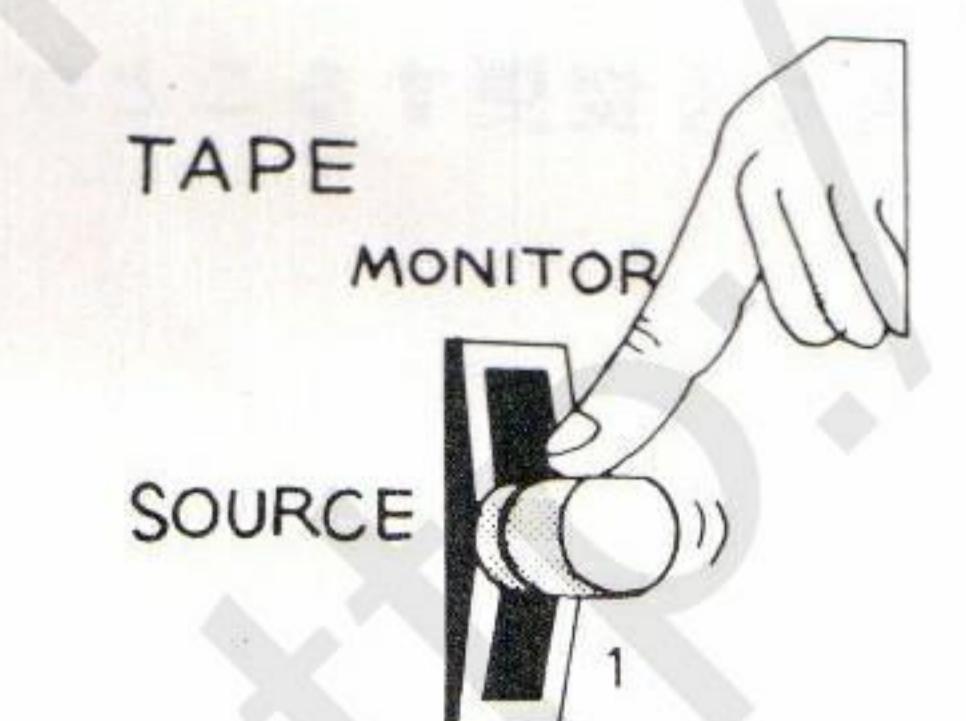
プラグイン ナットがゆるんでいませんか。



プラグイン ナットでヘッドをしっかりと固定します。



アンプ側の TAPE MONITOR スイッチが “MONITOR” の状態になっていませんか。

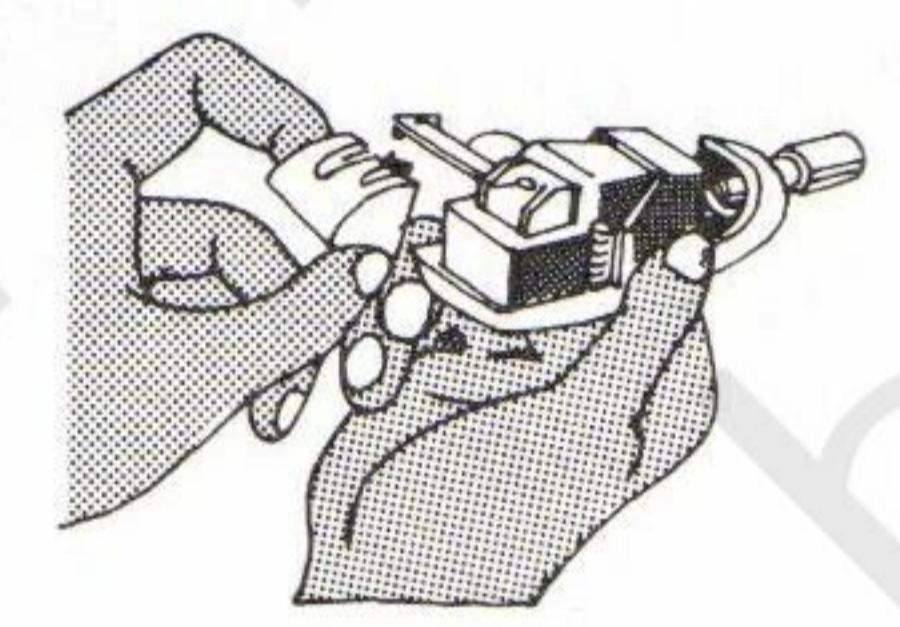


テープ TAPE MONITOR スイッチを “SOURCE” にします。

■ 雑音で聞き苦しい



レコード針が摩耗していませんか。



新しいレコード針に交換します。



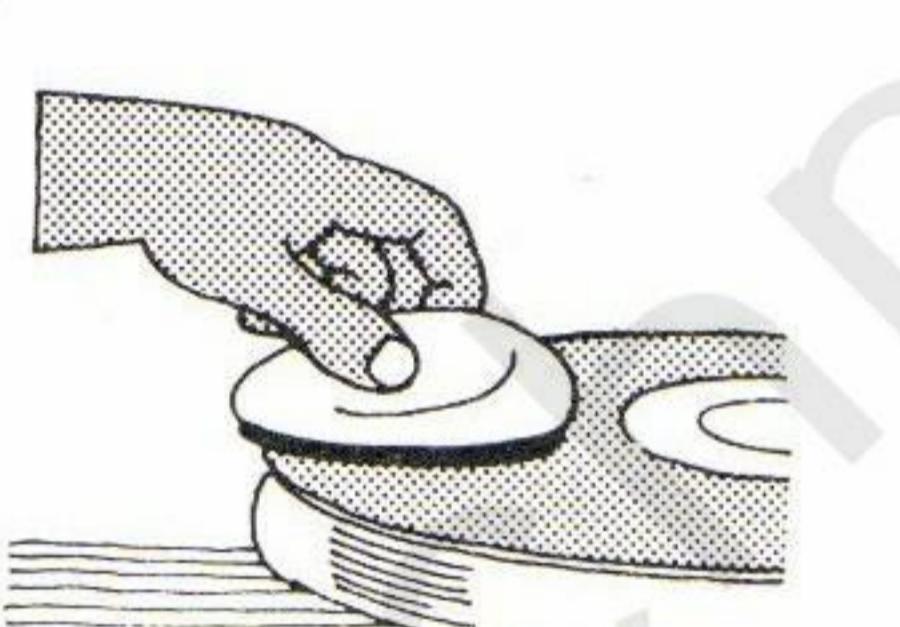
針先にホコリが付いていませんか。



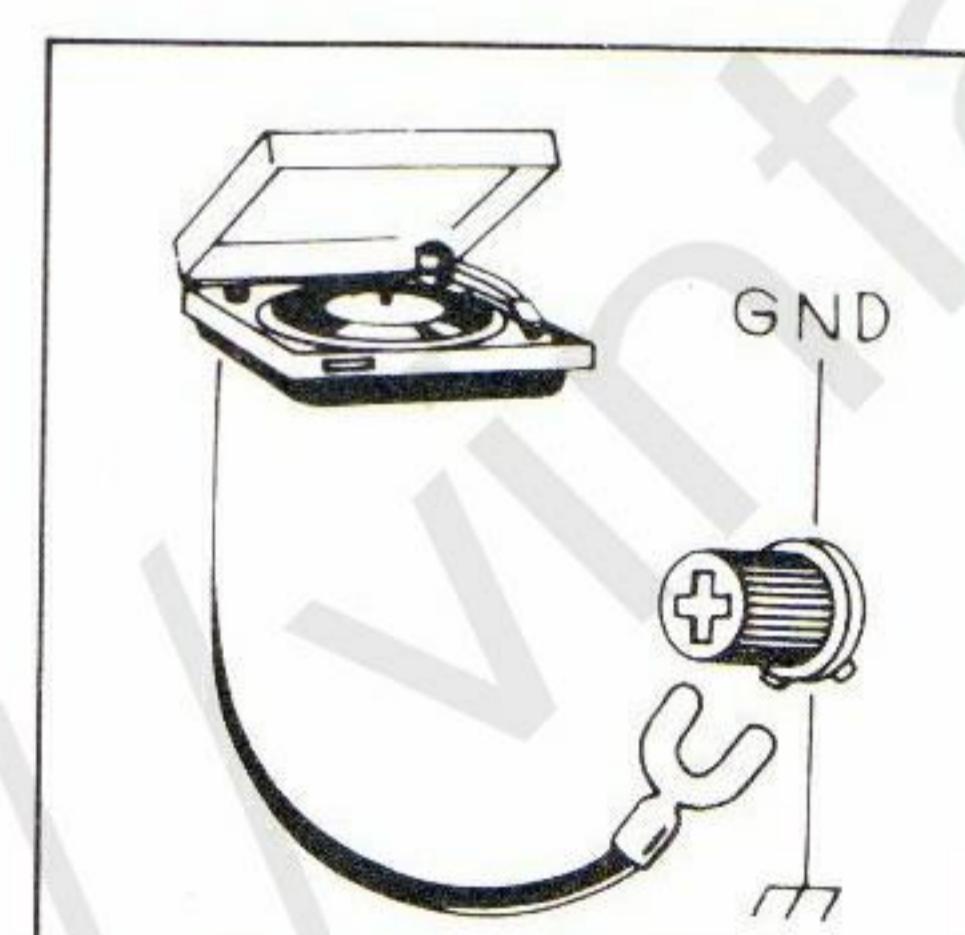
針先のホコリは、針先洗浄液(市販品)できれいにふきとってください。



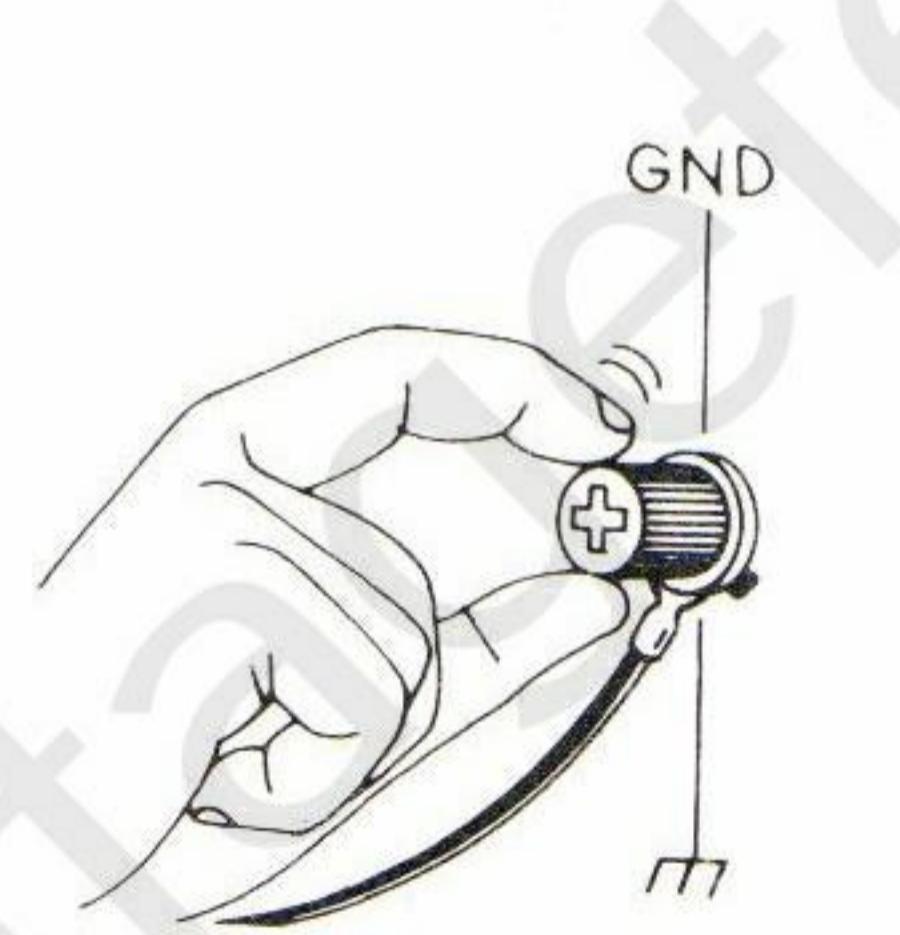
レコードが古かったり、ホコリが付いていたりしませんか。



レコードクリーナーでレコード溝のホコリをきれいにふきとってください。



接続コードがゆるんでいたり、アース線がはずれていますか。



接続コードやアース線は、確実に接続してください。

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号

お問い合わせ 〒100-8127 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号

(03) 580-2861

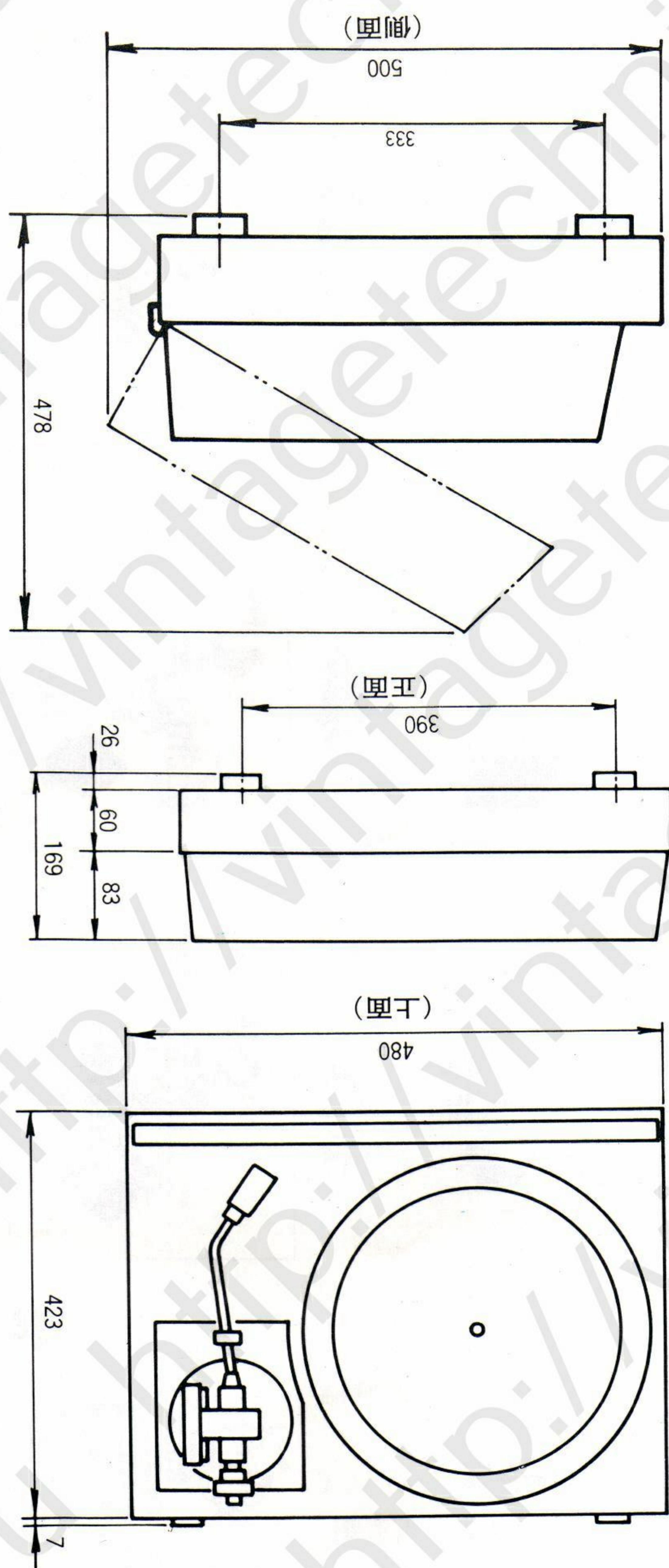
(0462) 74-2121 (代表)

電子機器部

日本ビクターミニスピーカー

(注)・本機の仕様は外観設計、改善のための予告なく変更する場合があります。

付属品 EP-7577A-1.....



（アーム一ル ハード合皮ホルダ）

重量 10.5kg

（電気用品取締法基準）

0.7W (60Hz)

POWER OFF : 0.9W (50Hz)

POWER ON : 10.0W

AC 100V (50Hz, 60Hz共用)

● 電源部・その他

42mm~48mm (45mm ハーフ)

（ハーフスピーカー重量 11g）

14.5~25g

0~3g (0.25g 以下の直轄式)

● 手元可変量範囲

15mm

+

-

245mm

有効長

● ハンドル部

31cm

温度特性 0.00005%/C

電圧特性 0% (+10V)

0.0001%/H

起動トルク 1kg.cm

速度換出方式 回波数換出方式 (FG方式)

78dB 以上 (DIN-B)

(WRMS/回転数 K&K測定法)

0.011%

+

-

0.02% (WRMS)

● ハンドル部

33 1/3 回転、45回転

FG ハンドル

速度換出方式

DC型

FG ハンドル DC型

寸法図